



ほかにはない
アンサーを。

オリックス株式会社

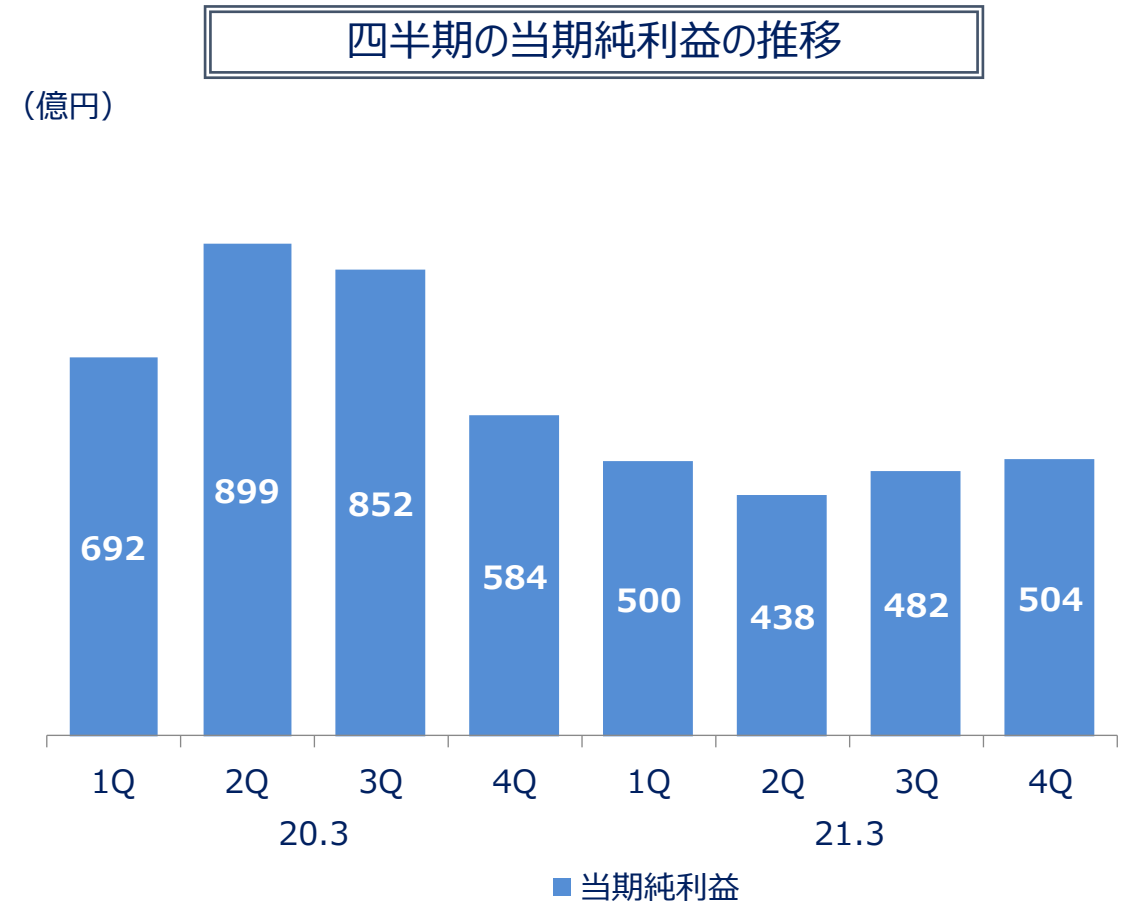
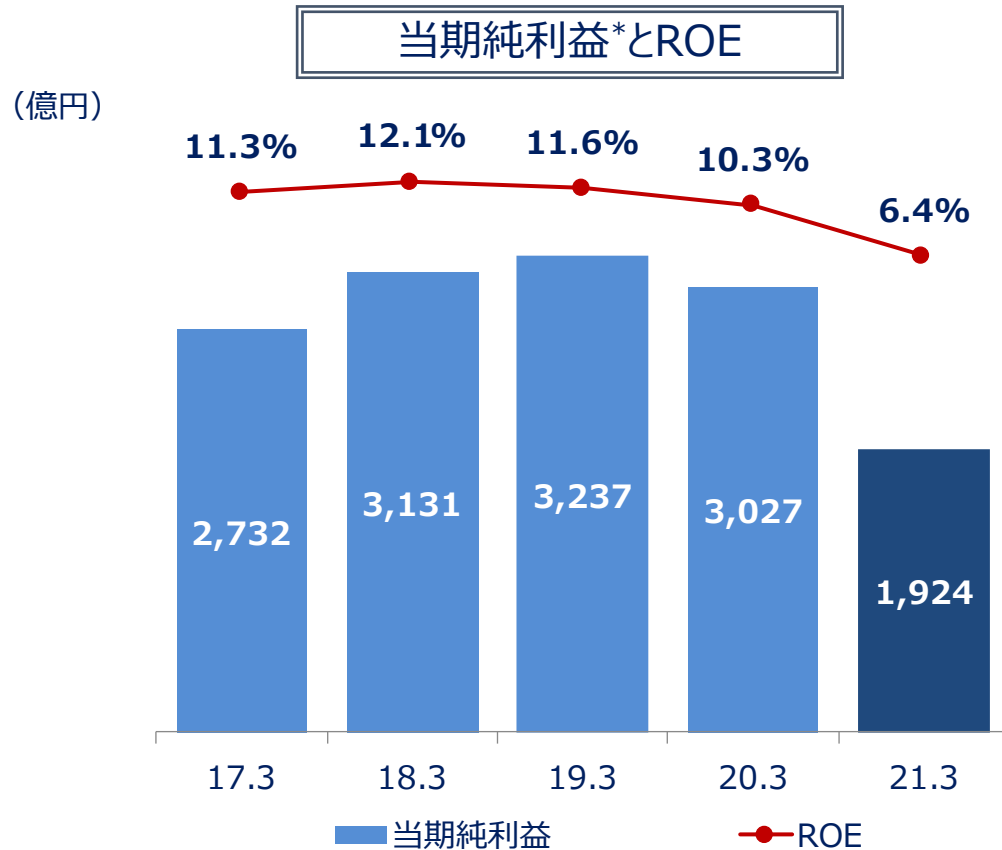
2021年3月期 決算説明会

取締役 兼 代表執行役社長 グループCEO 井上 亮

2021年5月13日

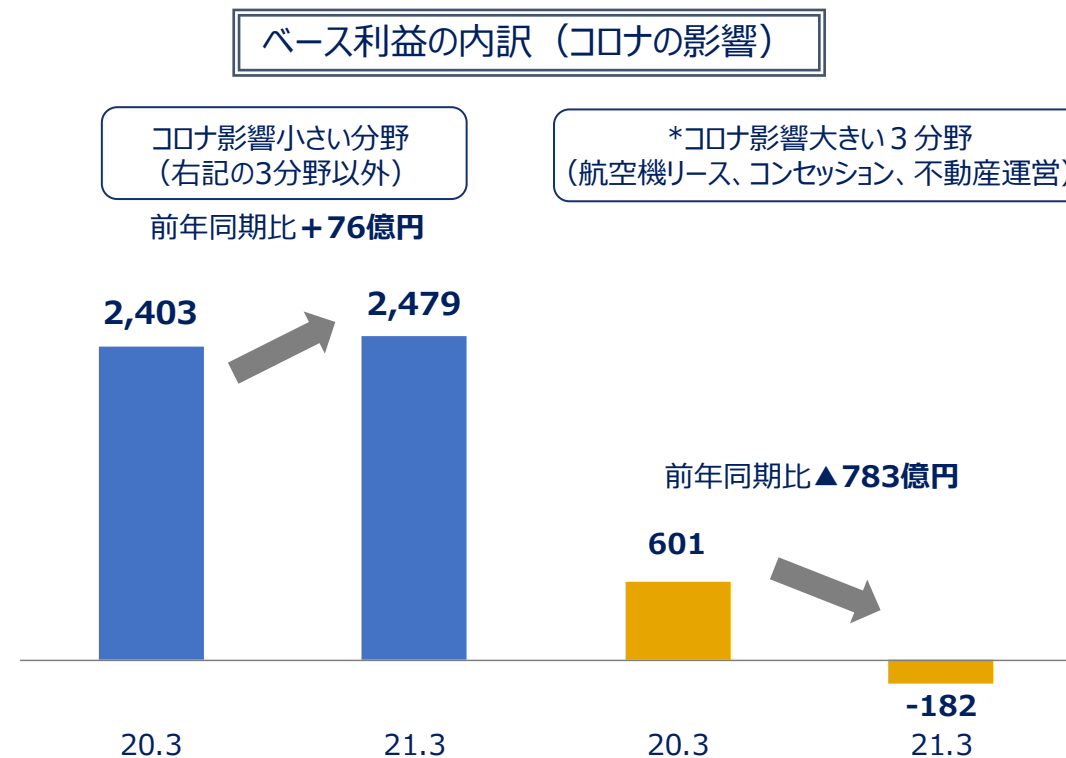
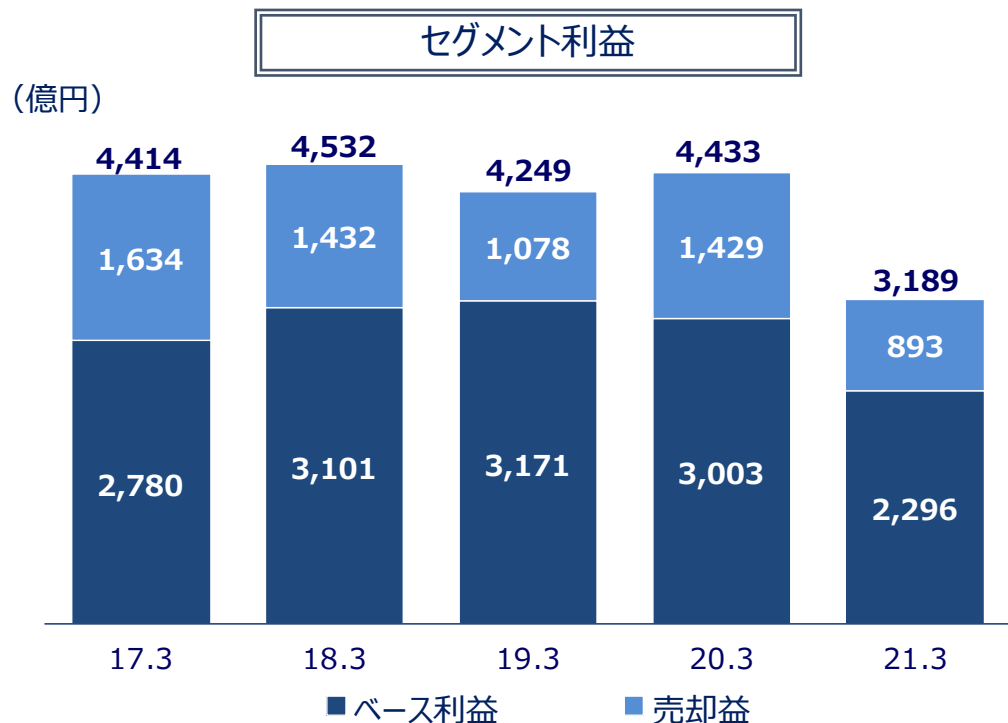
業績総括 当期純利益/ROE

- ✓ 当期純利益は 1,924億円（前期比▲36%）、ROEは 6.4%
- ✓ 第2四半期（438億円）、第3四半期（482億円）、第4四半期（504億円）と回復傾向が続く



*「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します

21.3期 セグメント利益 3,189億円 前期比▲28% (▲1,244億円)	うち ベース利益 2,296億円 前期比▲23.5% (▲707億円) コロナ影響大きい3分野*の影響 (▲783億円) 以外では、ベース利益は増益 (+76億円)
	うち 売却益** 893億円 前期比▲37.5% (▲536億円) 前年同期より減少したものの、不動産の他、米国やアジアでも実現。コロナ禍においても一定水準を確保



**主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など
売却益の内訳はP44をご参照ください

業績総括 新型コロナウイルスの影響



✓ 引き続き、コロナの影響には注意を要するが、第2四半期以降、コロナの影響は減少傾向

(セグメント利益、単位：億円)

項目	ハイライト	影響額(1Q)	影響額(2Q)	影響額(3Q)	影響額(4Q)
① 不動産 (運営)	2Q、3Qは回復基調だが、4Qは緊急事態宣言発令を受け、ホテル・旅館の稼働率は再び低下	▲60	▲30	▲20	▲50
② 航空機リース	ワクチン普及により一部の国では、国内線中心に回復傾向 但し、引き続き慎重な対応が必要	▲50	▲120	▲80	▲80
③ 空港 コンセッション	4Qは国内線回復により、赤字幅は縮小（10-12月実績を3か月遅れで 取込）。事業環境は引き続き注視が必要	▲40	▲90	▲80	▲60
④ 法人営業・ メンテナンスリース	法人営業、自動車、レンテックはともに1Qから回復基調	▲50	▲20	▲0	▲0
⑤ ORIX USA	1Qは、エネルギー資産を中心に信用損失費用を計上したが、2Q 以降は減少。3Q以降はコロナの影響なし	▲90	▲10	▲0	▲0
⑥ その他 (オリックス生命等)	1Qは、旧ハートフォード生命の責任準備金戻入益を計上。2Q以 降は大きな動きなし	+50	-	-	-
上記合計		約▲240	約▲270	約▲180	約▲190

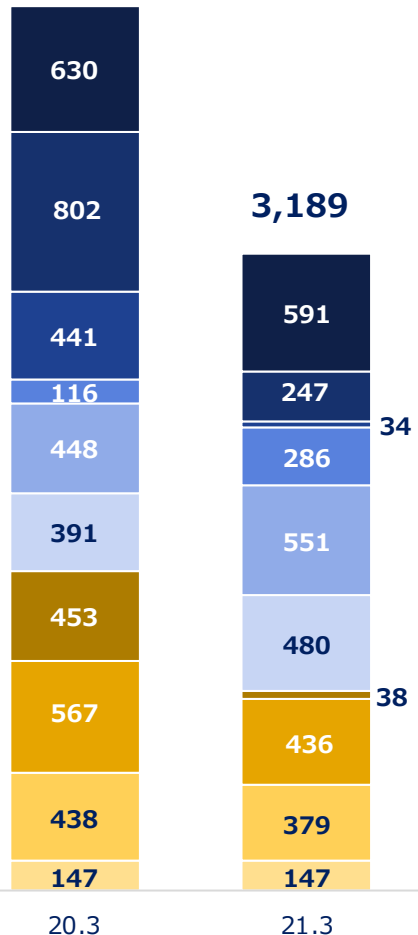
セグメント業績 (1) セグメント利益

✓ 2Q以降、多くのセグメントで利益の回復が継続

(下期セグメント利益は上期比で13%増加。3Q比では、6セグメントで増益)

4,433 (億円)

(億円)

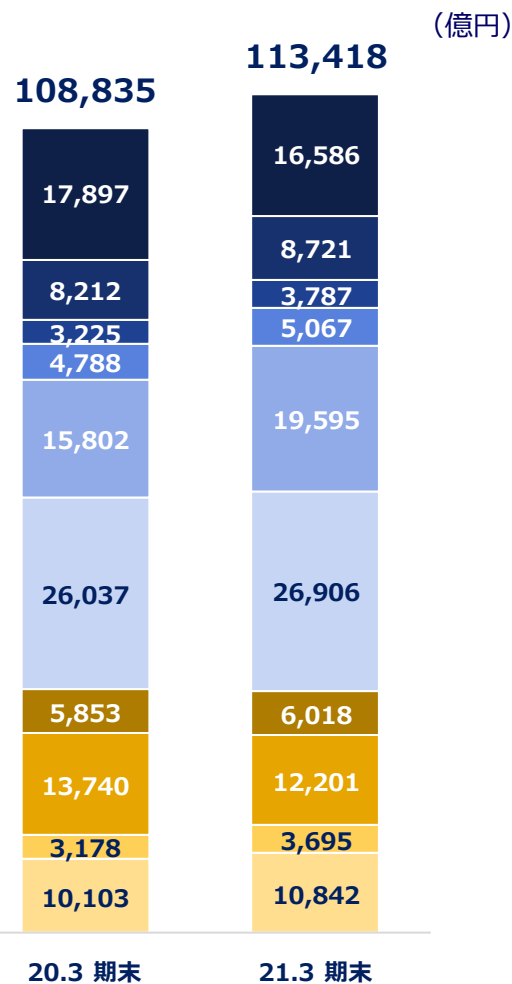


	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前Q比	前期比	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	102	147	162	180	591	17	▲ 38	1Qから4Qにかけて回復基調が続く
2 不動産	15	88	52	91	247	38	▲ 555	大型売却益計上案件が少なく、宿泊施設の稼働も低下し、前期比減益
3 事業投資・コンセッション	45	▲ 4	2	▲ 8	34	▲ 10	▲ 407	コンセッションは主に国際便の旅客数減少により前期比減益。事業投資は堅調に推移
4 環境エネルギー	81	60	37	108	286	71	169	利益は大幅に増加。一部事業の評価益・売却益を計上
5 保険	180	168	159	45	551	▲ 115	103	コロナ影響下では、非対面募集が伸長。前期比増益。4Qは為替影響により減益
6 銀行・クレジット	115	128	127	111	480	▲ 16	89	銀行・クレジットともに順調に推移。前期比増益
7 輸送機器	73	▲ 26	▲ 16	6	38	22	▲ 415	航空機のリース料収入、売却益の減少に加え、Avolonからの取込利益も減少
8 ORIX USA	2	112	161	161	436	▲ 1	▲ 131	信用損失費用の縮小及びファンドの評価損益の改善により、2Qから業績が大きく回復
9 ORIX Europe	67	96	96	120	379	23	▲ 59	AUMは大幅に回復、前期RobecoSAMの一部門の売却益を除くと増益
10 アジア・豪州	74	▲ 28	37	63	147	25	▲ 0	PE投資先に対して減損を計上するも、現地法人の利益は堅調
合計	754	741	819	875	3,189	56	▲ 1,244	-

セグメント業績 (2) セグメント資産

- ✓ 法人営業、ORIX USAは与信案件に引き続き慎重に取り組み、資産減少
- ✓ 環境エネルギー、事業投資は新規実行により資産増加、生命保険は新規契約が順調

(億円)



	21.3	前期末比	ROA	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	16,586	▲ 1,311	2.4%	融資案件を厳選したため営業貸付金が減少
2 不動産	8,721	509	2.0%	物流施設等の投資に伴う資産増加
3 事業投資・コンセッション	3,787	562	0.7%	PE投資に伴う資産増加
4 環境エネルギー	5,067	279	4.0%	Greenkoの発行済株式21.6%を取得、資産増加
5 保険	19,595	3,794	2.1%	新規契約の増加に伴い、運用資産が増加
6 銀行・クレジット	26,906	869	1.2%	銀行の貸付金残高が増加
7 輸送機器	6,018	165	0.4%	航空機は機体売却に伴い資産減少したが、船舶の資産は増加
8 ORIX USA	12,201	▲ 1,539	2.3%	CLOオフバランス化により営業貸付金減少、資産残高を適切にコントロール
9 ORIX Europe	3,695	517	7.6%	Gravis Capital Management の発行済株式70%を取得、資産増加
10 アジア・豪州	10,842	740	1.0%	コロナ影響の大きい東南アジアは減少、コロナ影響の小さい中国・韓国は増加
合計	113,418	4,582	1.7%	-

21.3期 振り返り

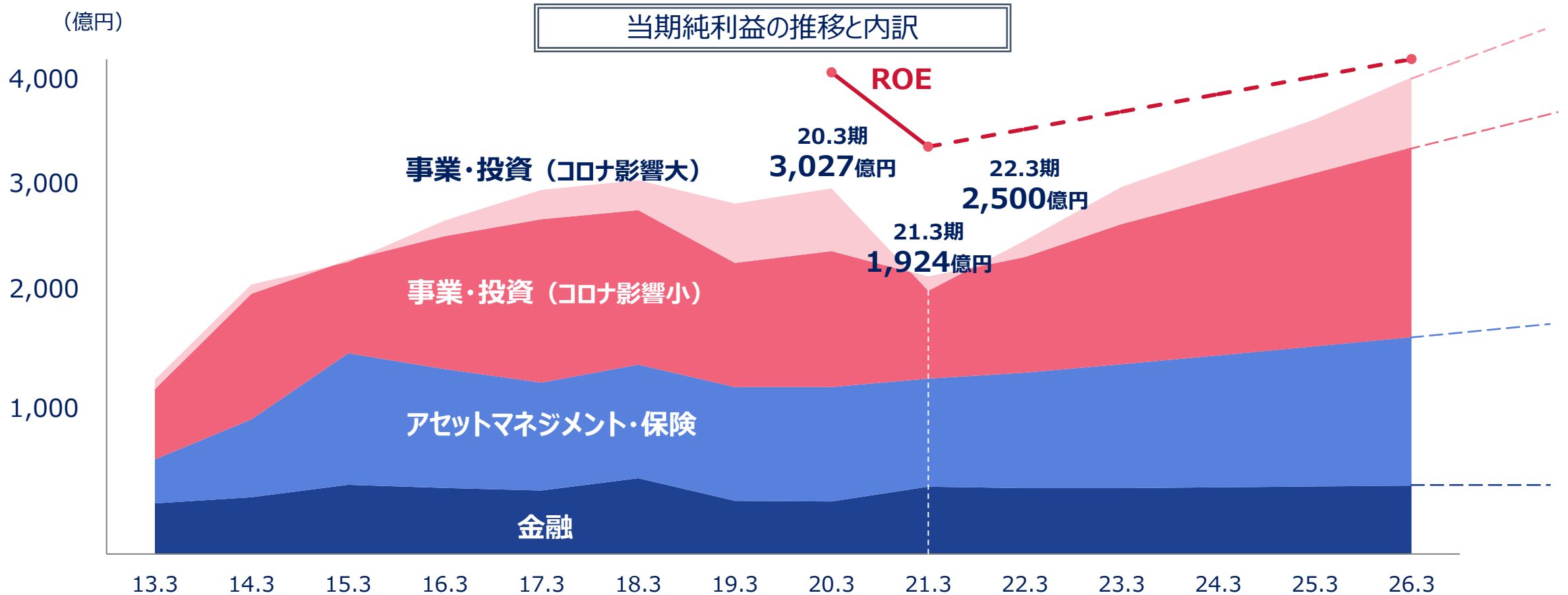
	21.3期 中間決算 (2020/11発表)	21.3期 実績 (2021/5発表)	22.3期 予想 (2021/5発表)
当期純利益	1,900億円を予想	1,924億円	2,500億円
株主還元方針	<ul style="list-style-type: none"> ・通期配当額 1株当たり76円もしくは配当性向50%、いずれか高いほう ・自社株買い 未消化分442億円*₁の再開 	<ul style="list-style-type: none"> ・通期配当額78円 (配当性向50%) ・自社株買い543億円完了 (4月、5月取得101億円+442億円*₁) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通期配当額78円 (中間配当金39円) ・自社株買い500億円 (総還元性向約57%*₂)
健全性	A格に相応しい 財務基盤を維持	A格に相応しい 財務基盤を維持	A格に相応しい 財務基盤を維持
新規投資	上期 約2,000億円	通期 約5,000億円	環境エネルギー、アセットマネジメント PE投資、物流施設を中心に検討

*1: 20.3期に決定した1,000億円の自社株買いの未消化分

*2: 当期純利益が2,500億円の場合

今期以降の見通し

- ✓ 22.3期の当期純利益目標は2,500億円。早期に当期純利益3,000億円、中長期的に4,000億円を目指す
- ✓ ROE11%以上に戻すことは、最重要課題



*各項目の構成要素は、P43をご参照

- ✓ Elawan Energyを通じて、本格的に欧州における再生可能エネルギー事業の開発に着手
- ✓ 英国のオルタナティブ資産運用会社（Gravis Capital Management）を通じて、再生可能エネルギーファンドの立ち上げも模索

パイプラインのプロジェクト総額*1



【海外】

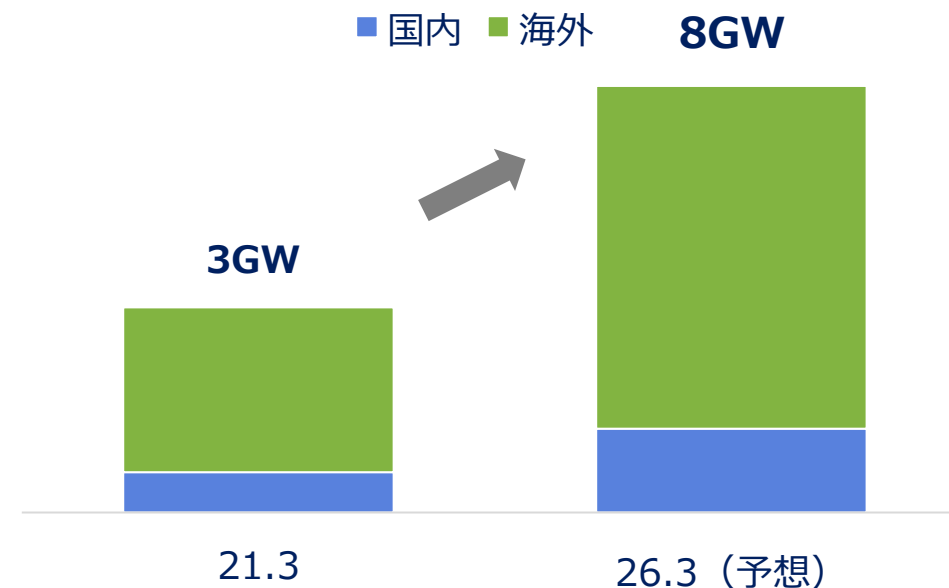
Ormat Technology 1,000億円

【国内】

メタンガス発電施設 61億円、地熱発電 180億円、その他 800億円

*1 今後の想定プロジェクトコスト総額。オリックスの持分比率等を考慮していない
初期の検討段階の案件を含む。大半をプロジェクトファイナンスにて調達予定

再生可能エネルギー設備容量の見通し*2

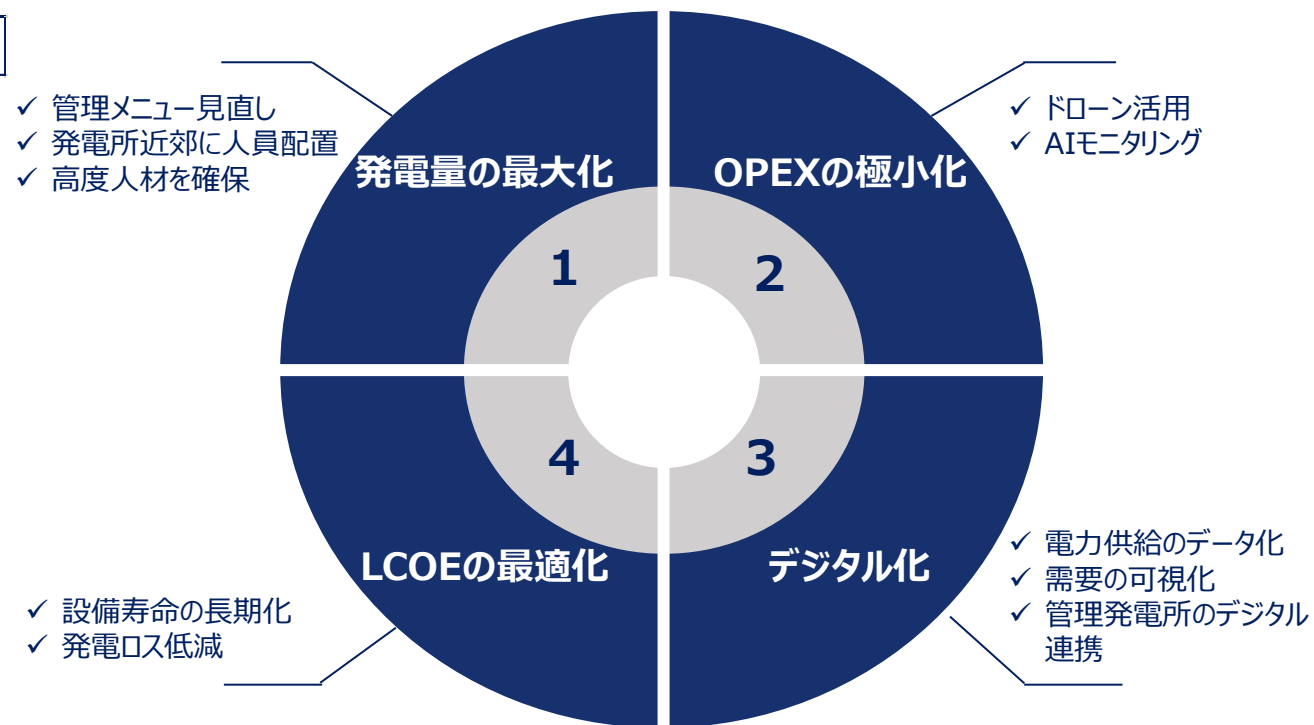


*2 ORIXの持分比率等、考慮後

- ✓ 日本国内にて、太陽光発電事業者として約870MWの発電所を稼働済み
- ✓ 2018年6月に太陽光発電所の運営管理を専門とする子会社を設立
- ✓ これまでは、当社保有のメガソーラー発電施設を運営管理、2022年3月期より第三者所有の発電所へサービス提供開始

専門子会社 オリックス・リニューアブルエナジー・マネジメント

- 2018年6月設立
- 当社の国内メガソーラー発電所（83か所/430MW）を運営管理し、発電量の劣化率を抑制
- FIT期間累計では数百億円の追加収益を見込む
- DX活用による発電量の最大化やLCOE*の最適化により、カーボンニュートラル社会に貢献



*LCOE (Levelized Cost of Electricity) : 均等化発電コスト

注力分野：環境エネルギービジネス以外

- ✓ 環境エネルギー事業以外では、プライベートエクイティ投資、アセットマネジメント事業、物流投資/データセンターが注力分野
- ✓ MICE-IRは、コロナ禍での提案となる点、及び、CO₂削減を考慮に入れて、RFPの提案期日に向け検討中

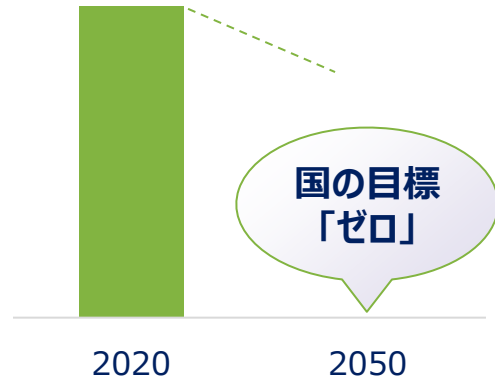
分野	概要
① プライベートエクイティ投資	<ul style="list-style-type: none">・過去、数年間にて計2,000億円以上の売却益を計上・事業承継分野に加え、大型M&A取り組みを、日本、米国、中国、欧州にて検討
② アセットマネジメント事業	<ul style="list-style-type: none">・2021年3月末時点の運用資産残高50兆円 (21.3期はBoston Capital、及び、Gravis Capital Managementを買収)・今後も、タイミングを計りながら、新規買収を継続的に検討
③ 物流投資/データセンター	<ul style="list-style-type: none">・物流は、首都圏を中心に開発を継続（1,500億円のパイプラインを確保） (当面、運営・開発・売却のビジネスモデルを継続)・デジタル化の加速に伴い、電力消費を抑えた新しいデータセンターを検討

ESG方針について：環境（E）

- ✓ 全社CO2削減目標について具体的に検討中。今年秋までに公表する予定
- ✓ 再生可能エネルギー事業のグローバル展開やサステナビリティに配慮した不動産開発を加速

CO2排出量

オリックスグループ
計約**130**万トン



排出は環境エネルギー事業が中心
削減目標を検討中

各分野での取組

環境エネルギー

CO2削減貢献量
300万トン規模
(2020年3月期/持分法適用会社含む)

- 再生可能エネルギー事業のグローバルな展開を加速
- 廃棄物処理関連分野でも、価値提供を継続

不動産

保有物件の設備更新による
CO2排出の削減

×

サステナビリティの観点を
組み込んだ物件開発

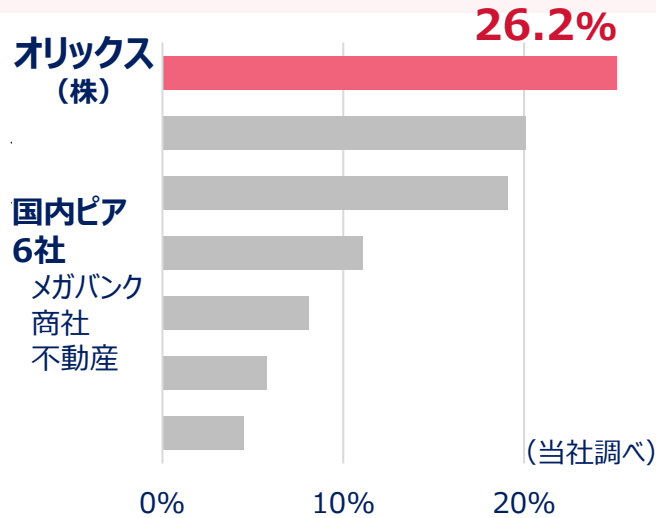
- CASBEEなど第三者認証の取得を推進

ESG方針について：社会（S）

- ✓ 「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」が成長の源泉
- ✓ 社会への価値提供においても、オリックスが果たすべき役割は大きい

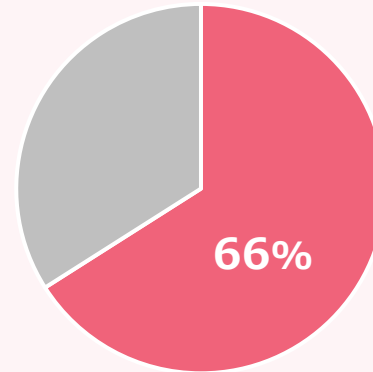
女性管理職比率

(2021年3月末)



いち早く女性の活躍推進に取り組んできた。MSCI日本株女性活躍指数（WIN）にも採用。継続的にキャリア支援策を強化

キャリア採用比率



(20.3期/国内オリックスグループ10社が対象)

採用人数に占めるキャリア採用比率は6割～7割で推移。事業の変化に応じた多様な人材を確保

社会への価値提供

温泉旅館の再生

事業承継支援

カーシェア、テレマティクス

オリックス銀行での遺言信託

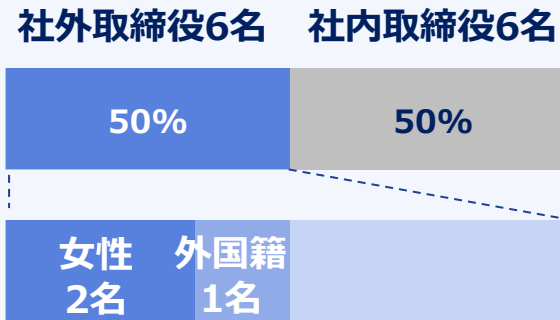
etc.

地域経済・中小企業の活性化、各種お取引先との適切な関係作りにおいて役割を果たしていく

ESG方針について：ガバナンス（G）

- ✓ 社外取締役は高い専門性や豊富な経験を持つ方を選任。複数が他社での経営経験を有する
- ✓ 今期より、ESGへの取組状況を執行役の報酬に反映させるべく、検討を開始

取締役の構成



女性取締役の比率は17%

(2021年3月時点)

多様なバックグラウンドを持った取締役で構成。「スキルマトリクス」を今年の招集通知で開示する予定

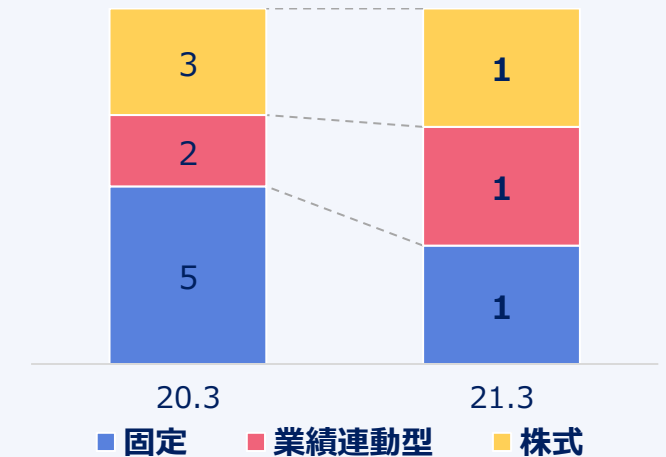
委員会の社外取締役比率



(2021年6月以降)

3委員会は全て社外取締役で構成予定。取締役会の実効性向上に継続的に取り組む

役員報酬制度



(詳細は有価証券報告書および統合報告書を参照)

業績連動型報酬および株式報酬の比率を引き上げ。株主との、より一層の価値共有を図る

(空白)

セグメント実績

セグメント別実績 (1) 法人営業・メンテナンスリース

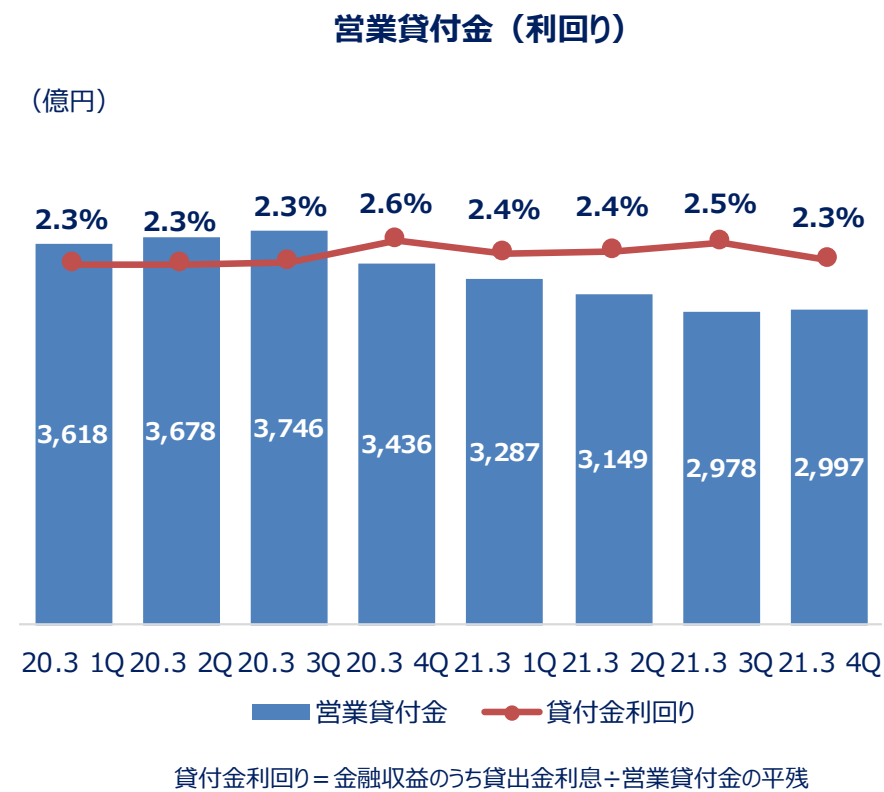
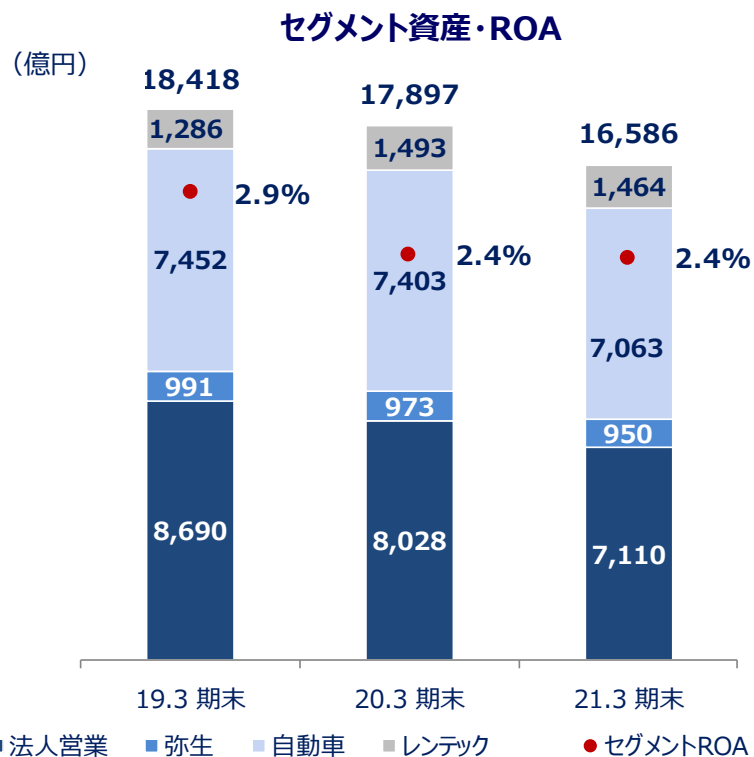
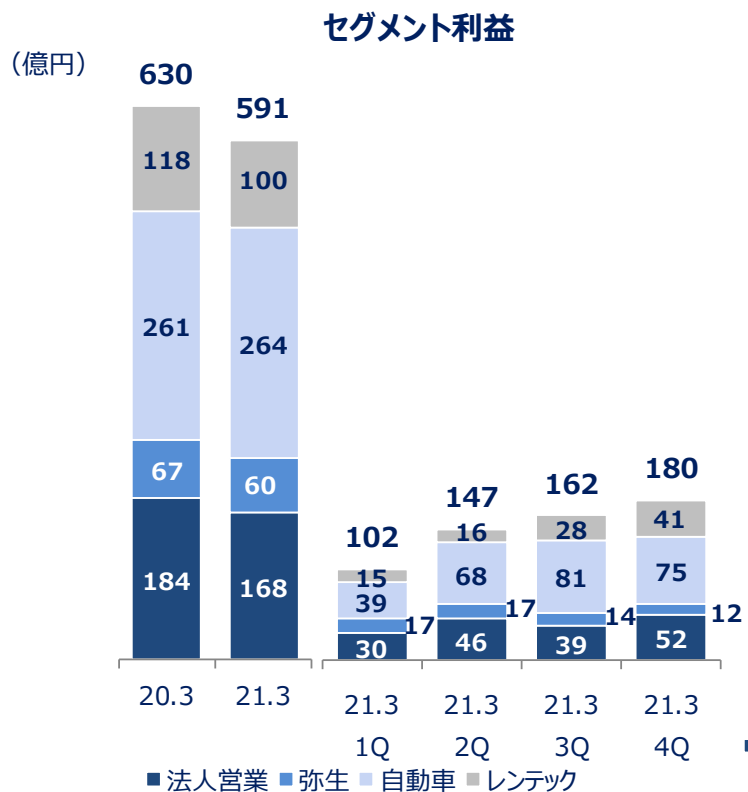
*1億円未満を四捨五入して表示しているため、各ビジネスユニットの合計値は、必ずしもセグメント数値とは合致しません

セグメント利益 : 591億円 前期比 ▲38億円 (▲6%)

- ✓ 法人営業、自動車、レンテックともに1Qは利益が落ち込んだが、2Q以降回復
- ✓ 自動車は採算性重視の案件選別、また中古車市場の好調等により前期比増益

セグメント資産 : 16,586億円 前期末比 ▲1,311億円 (▲7%)

- ✓ 低金利の環境下、融資案件に引き続き慎重に取り組み、資産減少



セグメント事業内容：金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生

法人営業	自動車	弥生
国内のグループネットワークを活用し、中小企業向けソリューションを提供	リース、レンタカー、カーシェアリングを展開	小規模法人・個人向け デスクトップ版・クラウド版ともにシェア No.1
<p>法人営業 グループ営業の中核的なプラットフォーム</p>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 車両管理台数 141.6万台 </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>会計ソフト販売 本数シェアNo.1 (65.8%*2)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>クラウド会計ソフト 利用シェアNo.1 (56.7%*3)</p> </div> </div> <p>■ 弥生 □ その他</p> <p>売上高：202.7億円 有償保守サポートユーザー：約74万 (2020年9月時点)</p>
	リース 車両台数 業界No.1 *1	
	レンタカー 車両台数 業界No.2 *1	
	カーシェアリング 車両台数 業界No.3 *1	

*1 オリックス自動車調べ(2021年3月末時点)

*2 業務ソフト市場における弥生製品のシェア：第三者による市場調査をもとに独自集計（対象期間：2019年10月1日～2020年6月30日）

*3 「クラウド会計ソフトの利用状況調査」MM総研調べ2020年4月

セグメント別実績 (2) 不動産

セグメント利益：247億円

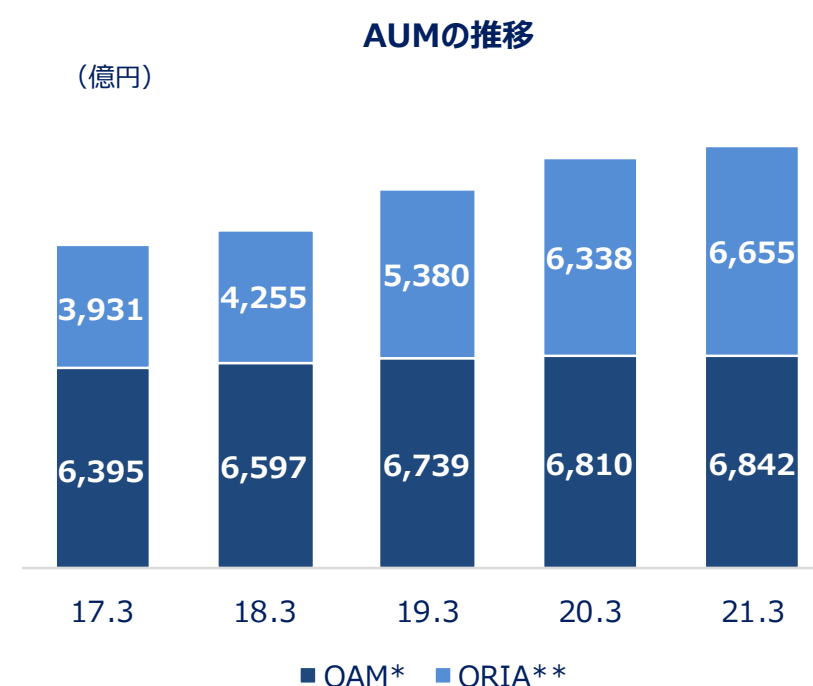
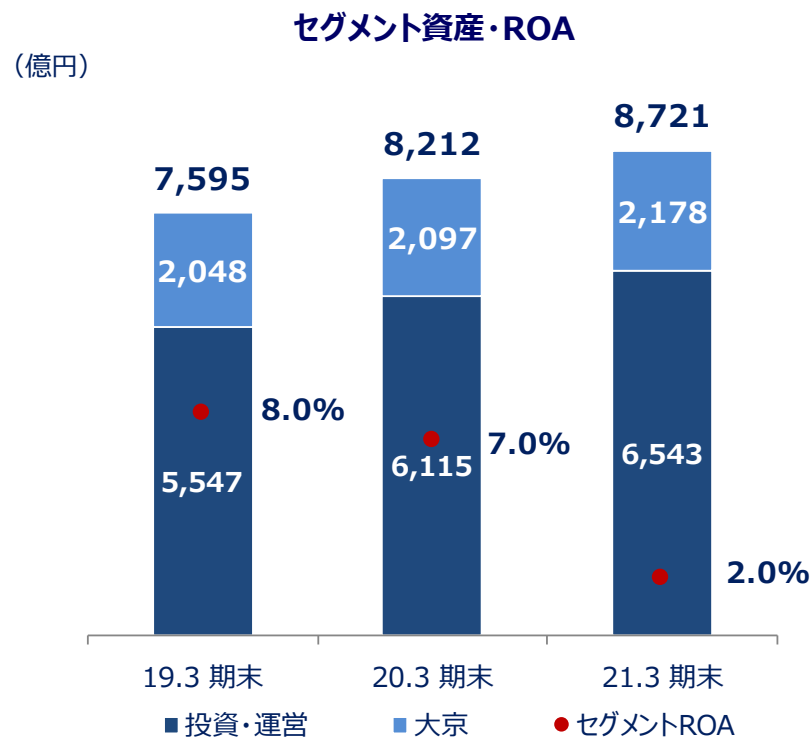
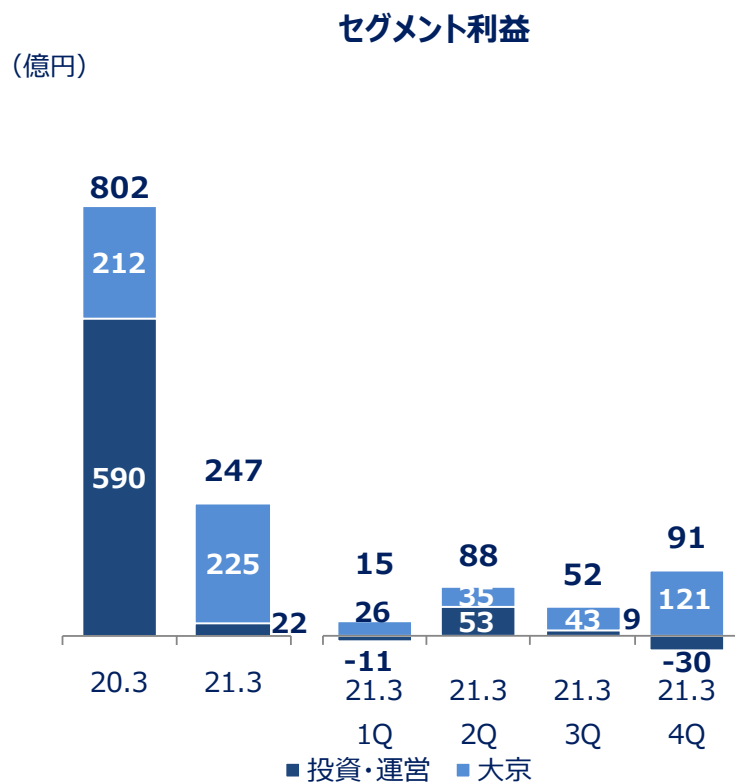
前期比 ▲555億円 (▲69%)

- ✓ 投資・運営は、宿泊施設の一時的休館の影響や、前期比大型案件の売却益が減少したことから減益
- ✓ 大京のマンション管理事業が好調、前期比増益

セグメント資産：8,721億円

前期末比 +509億円 (+6%)

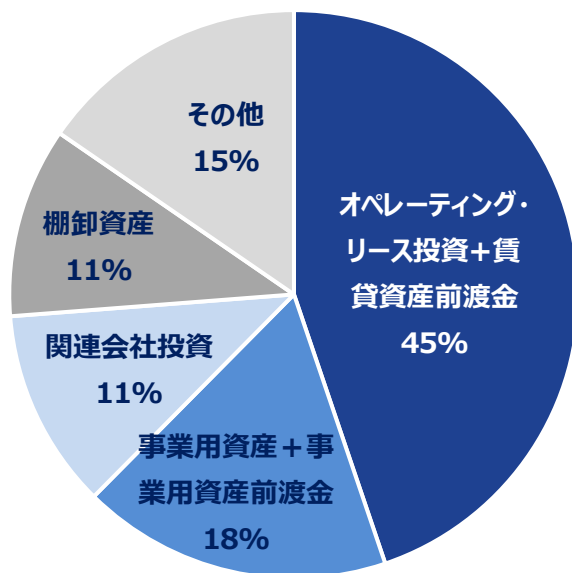
- ✓ 物流施設の投資等により、資産は増加
- ✓ 不動産のアセットマネジメントにおけるAUM（運用資産残高）は順調に増加



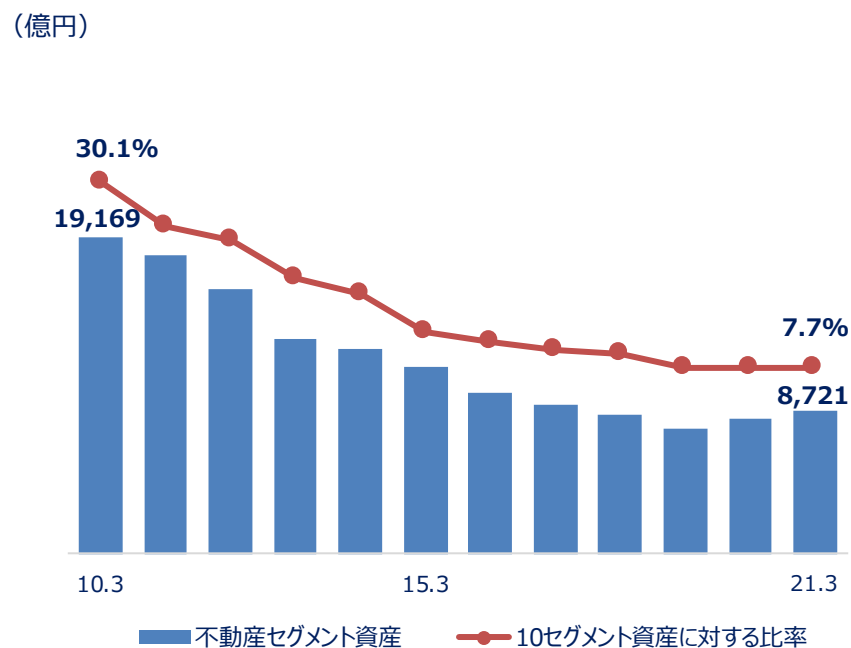
* オリックス・アセットマネジメント(株) (J-REIT) 毎年2月末時点の期末残高を同年3月末として掲載
 ** オリックス不動産投資顧問(株) (私募ファンド)

セグメント事業内容：不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント

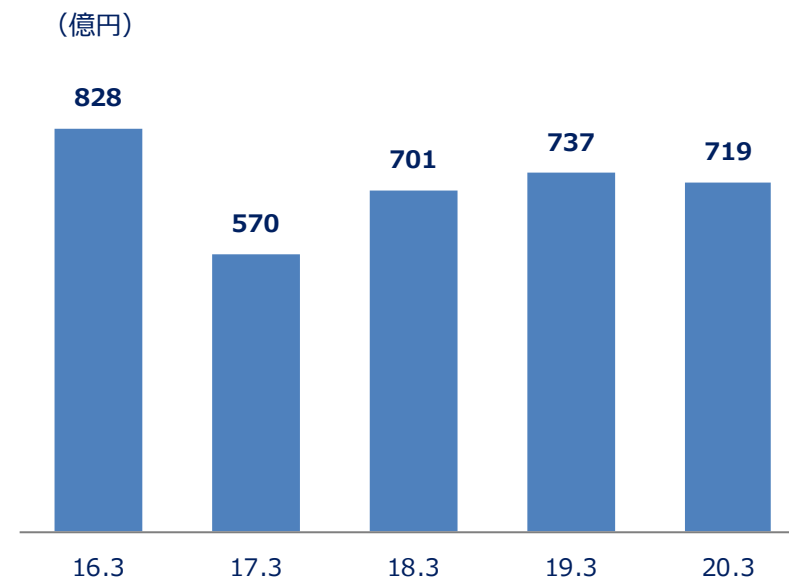
セグメント資産（21.3期末）



セグメント資産の推移



賃貸不動産の含み益*



*不動産以外のセグメントの賃貸不動産も含む
運営事業の資産は含まない

セグメント別実績 (3) 事業投資・コンセッション

セグメント利益：34億円

前期比 ▲407億円 (▲92%)

- ✓ PE投資の拡大により、投資先からの取込利益が増加
ただし、前期にPE投資の売却益を計上したため、減益
- ✓ コンセッションは、関西エアポートで旅客数が減少
(関西エアポートは4Q国内線回復により、赤字幅は縮小。10月-12月実績を3か月遅れで取込)

セグメント資産：3,787億円

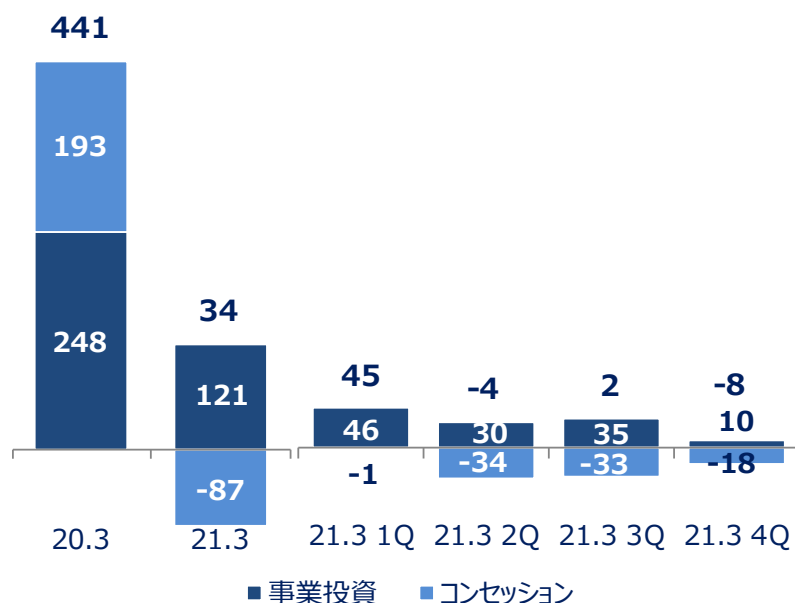
前期末比 +562億円 (+17%)

- ✓ 国内PE投資では、1Qに1件*1、3Qに3件*2新規投資を実施

*1: 同仁医薬化工 (医薬品の製造・販売)
*2: インフォマティクス (地図情報システム開発)
杉孝 (足場・仮設機材レンタル大手)
APRESIA Systems (ネットワーク機器メーカー)

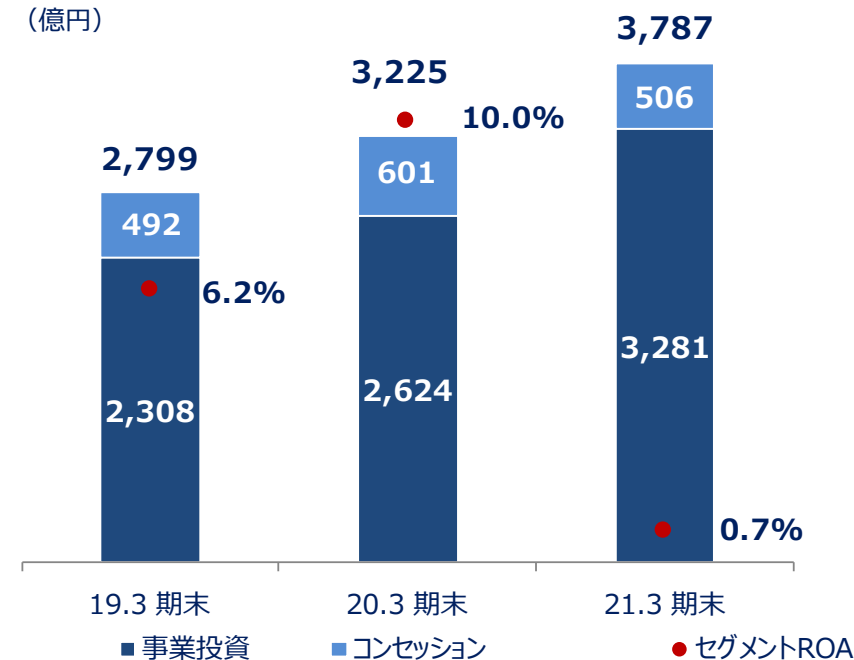
セグメント利益

(億円)



セグメント資産・ROA

(億円)



- ✓ 事業投資の投資先は17件（2021年3月末時点）。オリックスグループの新たなビジネス・セグメントの構築を目指す

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企业 に注力 (EV：数百億円)	1件あたり 3年～5年以上

実行案件数 (2012年以降)	投資実績
26件	IRR 30% 2012年以降の投資案件 (8件)のEXITの平均値

事業投資の特徴

資金力のみならず、幅広い業種における事業運営ノウハウを有する。対象会社のバリューアップを図りつつ、投資期間・投資形態に柔軟性をもつ

フレキシビリティ	PEファンドとは異なり自己資金での投資のため、柔軟な投資期間・投資形態が可能
実践的な支援	経営支援のための人材を送り込み、オリックスグループのネットワークを生かして事業成長のためにコワークする等、投資先企業と本質的な「パートナーシップ」を構築
シナジー	オリックスグループは、日本において強力な国内法人営業ネットワークを有する。ネットワークを活用した投資活動を通じて、多角的な事業ポートフォリオの構築に携わり、またグループでのシナジー効果を生み出す
注力分野	社会的課題の解決に資する、かつ成長が期待できる産業に着目し、物流、レンタル、IT・情報サービス、ヘルスケア、酪農等の産業に関しては重点的に投資を積み上げていく。注力分野では長期的な保有も行き、拡張性を追求すべくロールアップ等を積極的に行い、投資先間のシナジーも実現する

セグメント別実績 (4) 環境エネルギー

セグメント利益 : 286億円

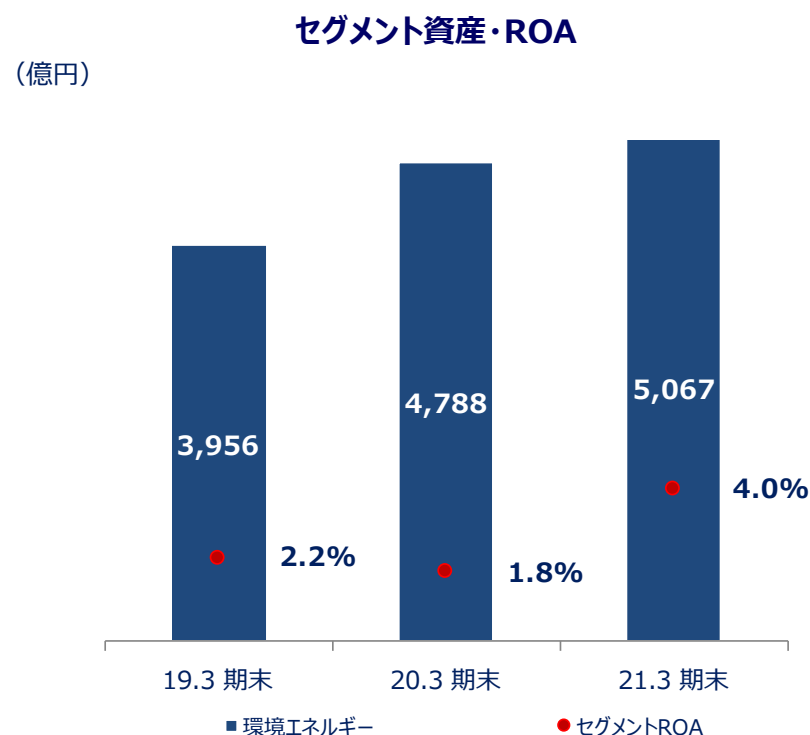
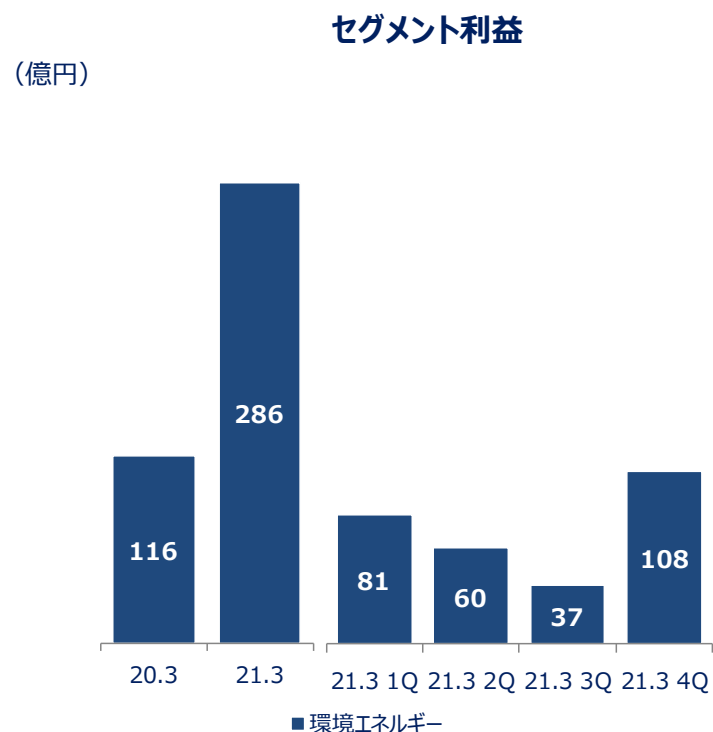
前期比 +169億円 (+146%)

- ✓ 利益が大幅に増加
- ✓ 1Q、4Qはインド風力事業の評価益・売却益を計上

セグメント資産 : 5,067億円

前期末比 +279億円 (+6%)

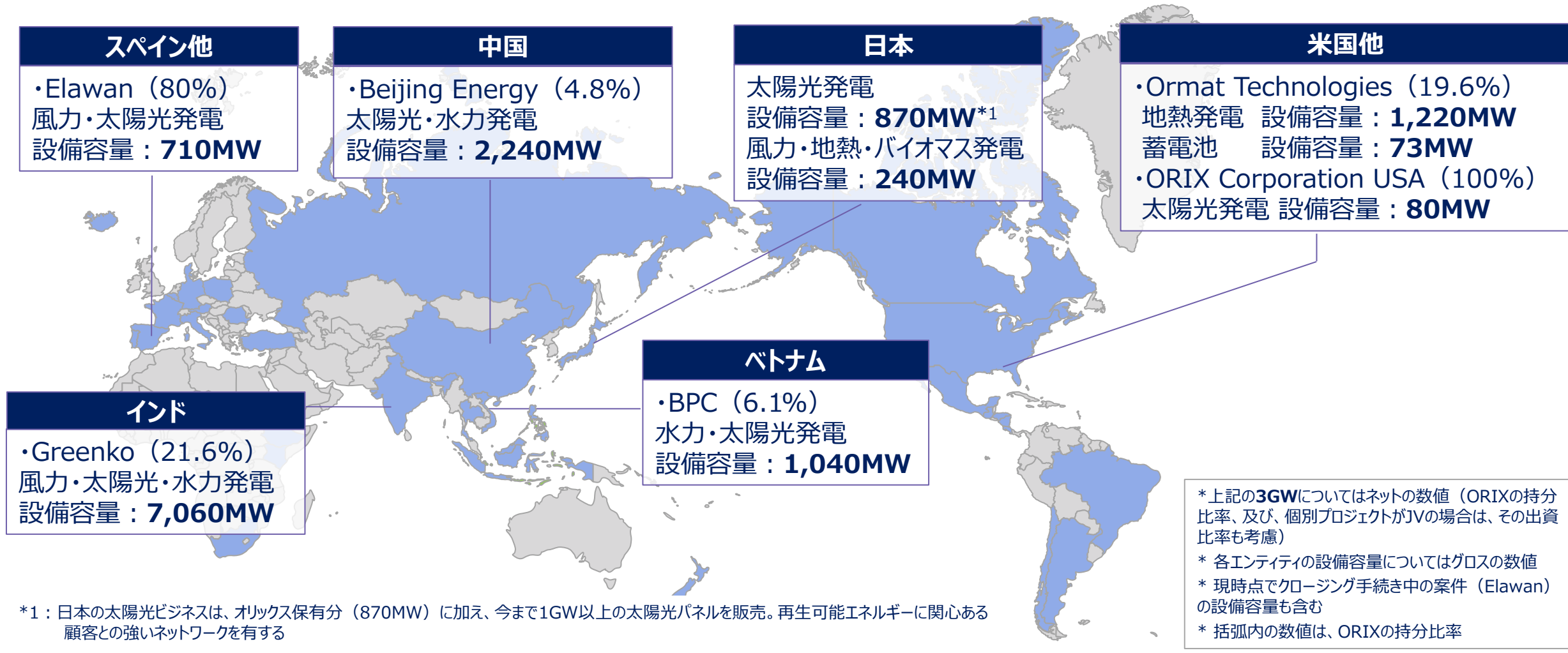
- ✓ Greenko Energyの発行済株式21.6%を取得済
- ✓ Elawanの発行済株式80%の取得につき基本合意 (22.3期中の株式取得を目指す)



再生可能エネルギービジネスについて

✓ 稼働済の設備容量は全世界で**3GW***

Greenko, Elawanを中心に約2GWのプロジェクトが建設中。パイプラインは、Greenko 6GW以上、Elawan 9GW以上



セグメント別実績 (5) 保険

セグメント利益 : 551億円

前期比 +103億円 (+23%)

- ✓ 非対面募集が伸長し、コロナ禍でも安定した利益を計上
- ✓ 4Qは外貨建て保険の為替変動影響により前Q比減益

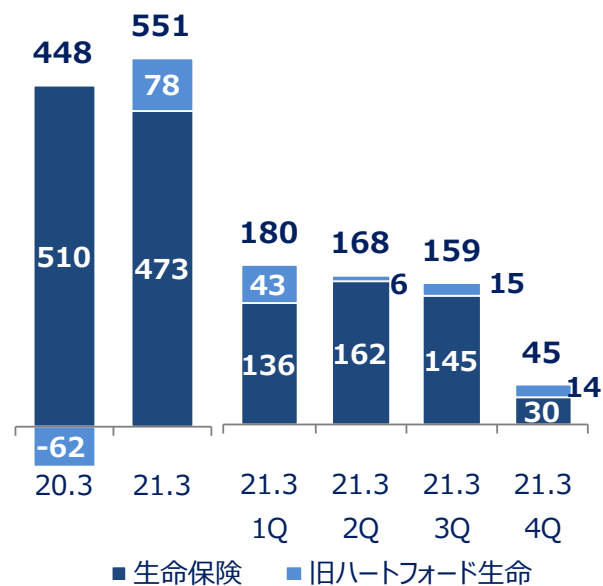
セグメント資産 : 19,595億円

前期末比 +3,794億円 (+24%)

- ✓ 新規契約の増加に伴い、運用資産が増加

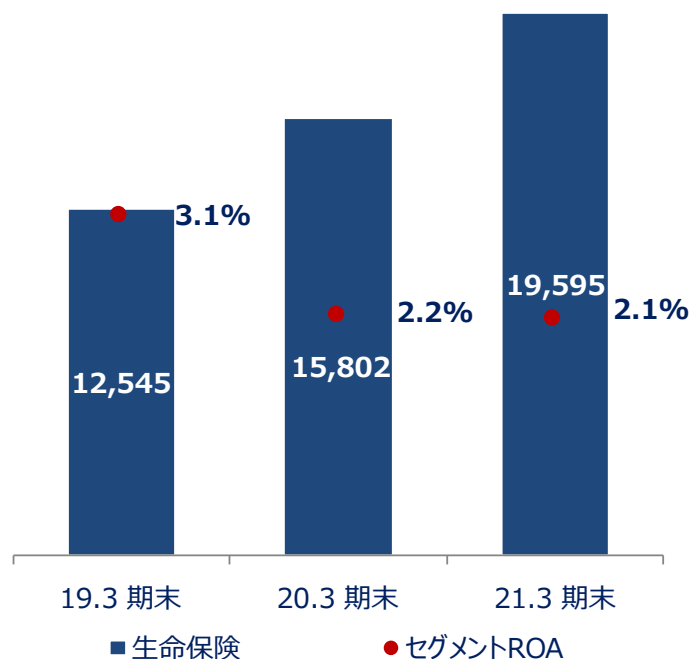
セグメント利益

(億円)



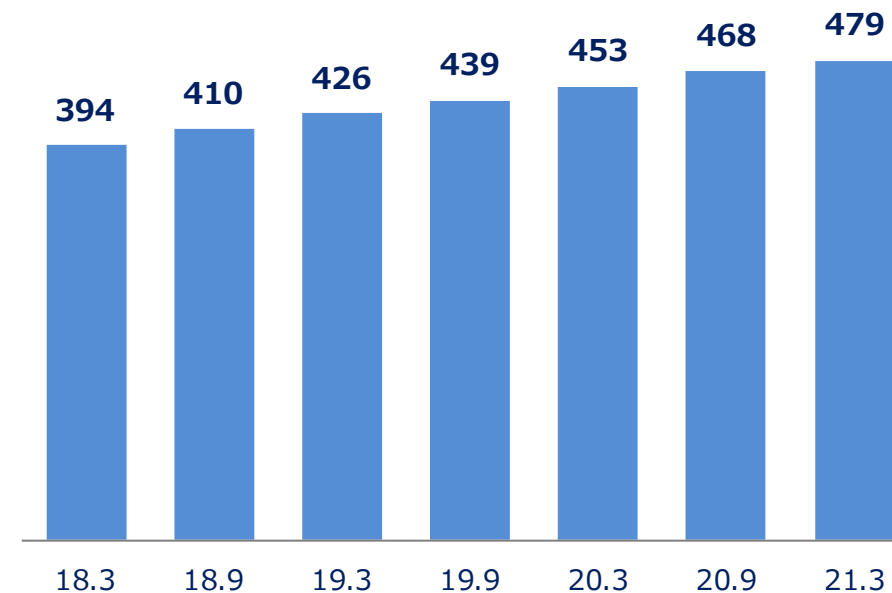
セグメント資産・ROA

(億円)



オリックス生命の個人保険
保有契約件数

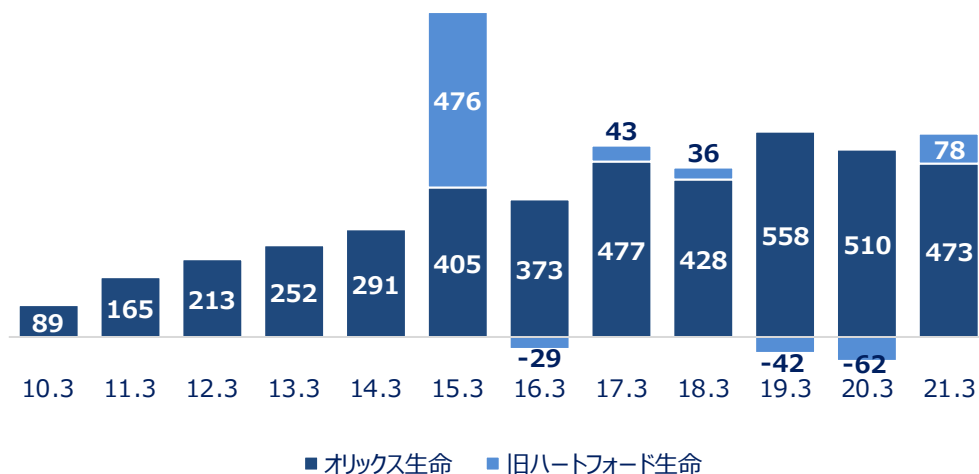
(万件)



- ✓ 4種類の販売チャネル（保険代理店、金融機関代理店、通信販売、オリックス生命社員による対面コンサル）を推進
- ✓ コロナ影響下でも堅調な「通信販売」は、パイオニアとして1997年からサービスを開始。
インターネットや郵便による販売を展開し、シェアは業界トップクラス
- ✓ 第三分野中心のポートフォリオから、第一分野に新たに商品を投入することで、よりバランスの取れたポートフォリオを実現

セグメント利益の推移*

(億円)

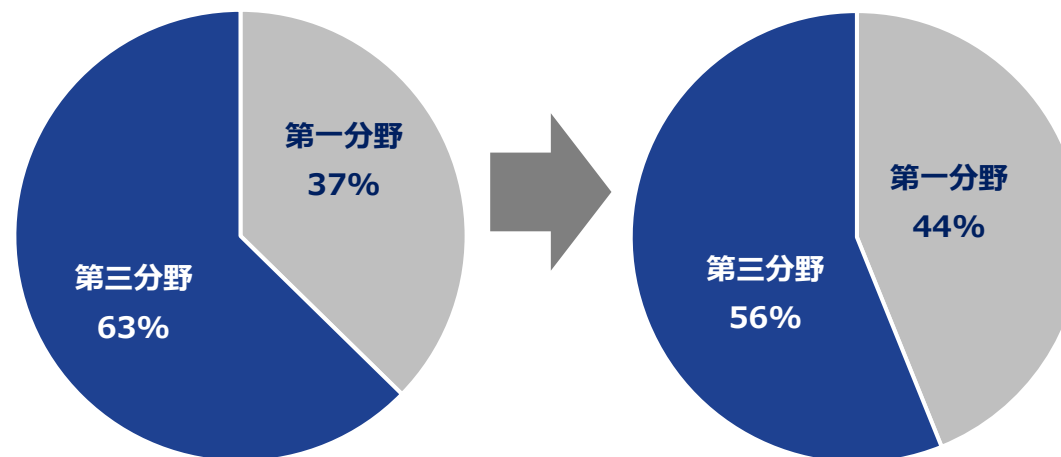


* 15年3月期は、旧ハートフォード生命取得に伴うバーゲンパーチェス益を計上

第一分野と第三分野のポートフォリオの推移 (保有契約の年換算保険料)

14.3期

21.3期



- ・第一分野（死亡保障など）
- ・第三分野（医療保険・がん保険など）

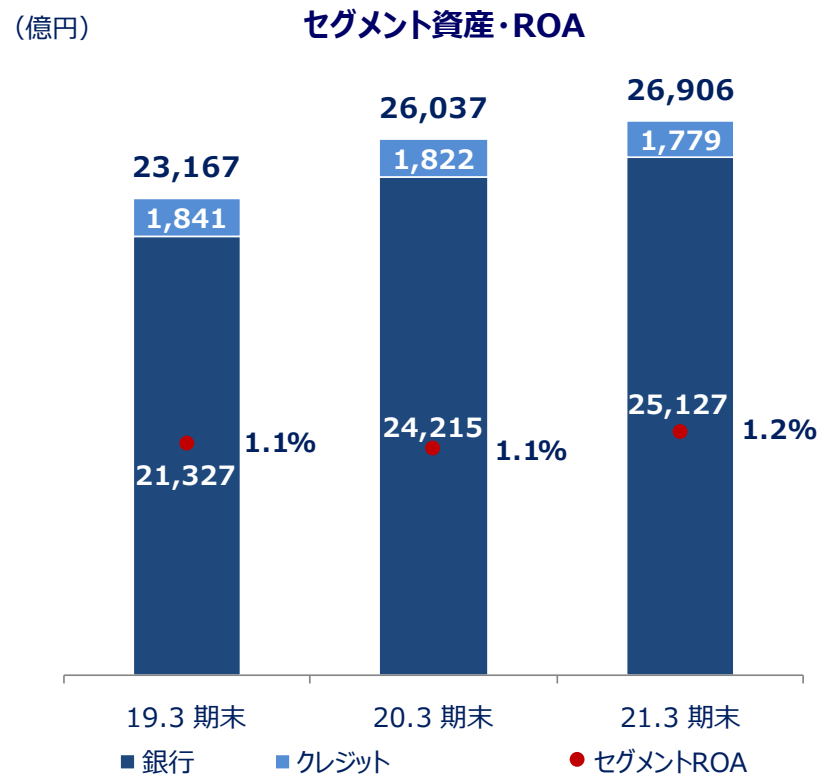
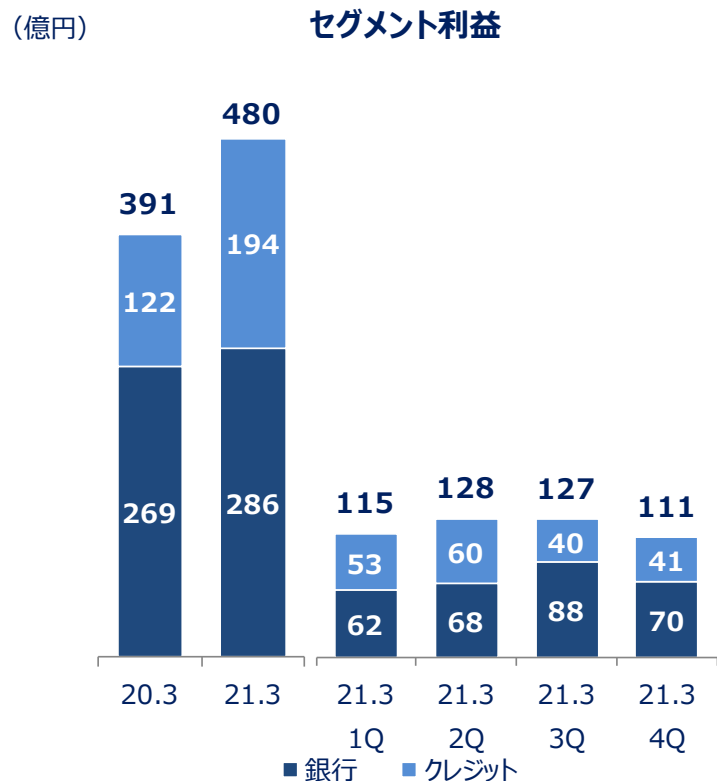
セグメント別実績 (6) 銀行・クレジット

セグメント利益 : 480億円 前期比 +89億円 (+23%)

- ✓ 銀行は、資産の積み上げにより、安定した利益を計上
- ✓ クレジットは、信用損失費用の減少もあり前期比増益

セグメント資産 : 26,906億円 前期末比 +869億円 (+3%)

- ✓ 銀行は、非対面営業を活用しながら投資用不動産ローンの需要を取込み増加
- ✓ クレジットは、横ばい



利回り・資金粗利鞘*

(2021年3月末時点)

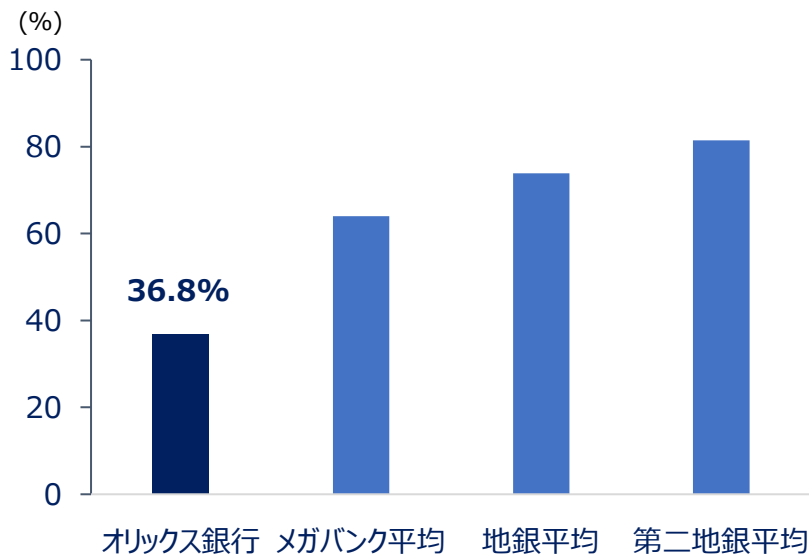
オリックス銀行 (単体)	
資金運用利回り	1.99%
資金調達利回り	0.18%
資金粗利鞘	1.81%

*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値 (日本会計基準)

資金運用利回り = 資金運用勘定における利息(大半が貸付金利息) ÷ 平均残高
 資金調達利回り = 資金調達勘定における利息 ÷ 平均残高
 資金粗利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達利回り

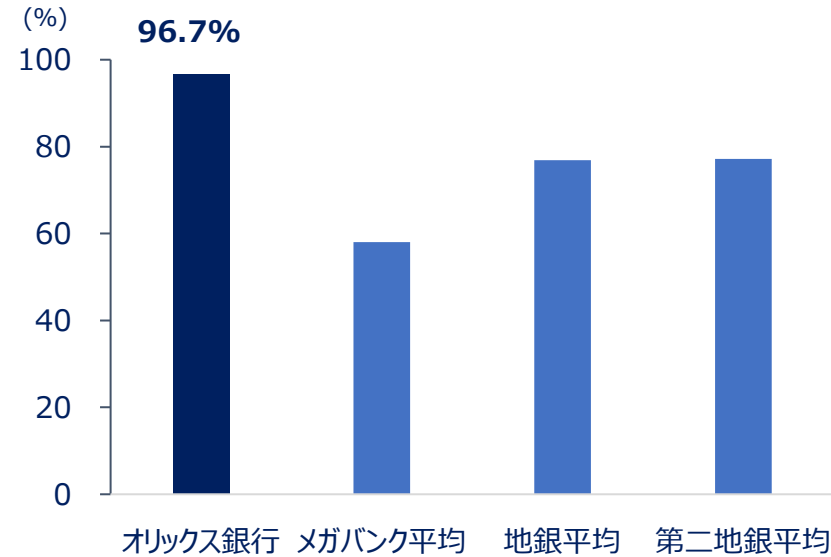
- ✓ オリックス銀行は、投資用不動産ローン等を中心にサービスを提供し、同業他社と比べ高いROE・ROAを実現
- ✓ 店舗網や口座決済機能、ATM機能を持たず、運営費を抑えたビジネスモデルで展開しているため、相対的に低い経費率、高い預貸率を維持

20.3期 経費率



*21.3期 オリックス銀行の経費率は37.5%

20.3期 預貸率



*21.3期 オリックス銀行の預貸率は96.8%

20.3期 ROE/ROA

	ROE	ROA
オリックス銀行	9.4%	0.8%
メガバンク平均	5.9%	0.2%
地銀平均	3.0%	0.1%
第二地銀平均	1.8%	0.1%

*全国銀行協会の「2019年度各行別財務諸表」に基づき当社集計

*経費率は「営業経費」、「業務粗利益」にて算出

*21.3期 オリックス銀行のROEは9.3%、ROAは0.7%

セグメント別実績 (7) 輸送機器



セグメント利益 : 38億円

前期比 ▲415億円 (▲92%)

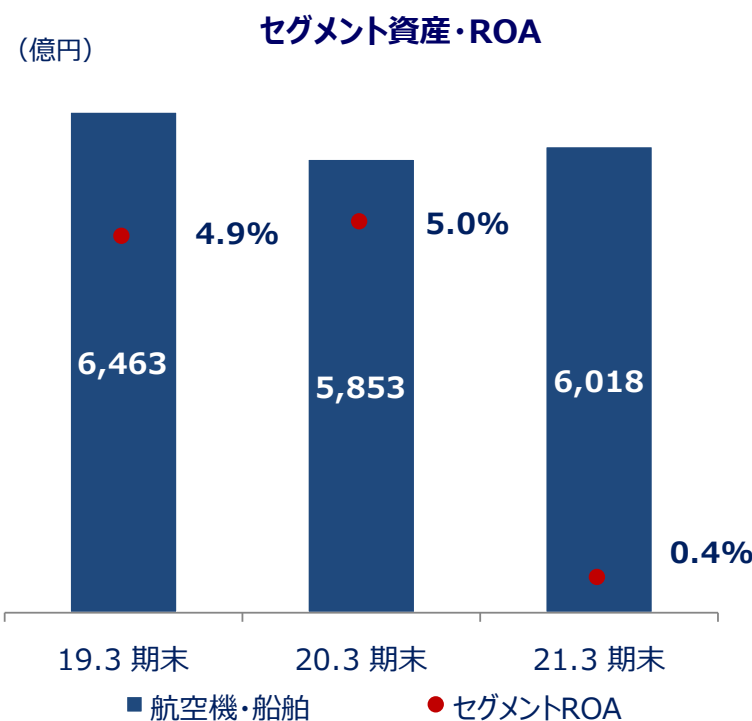
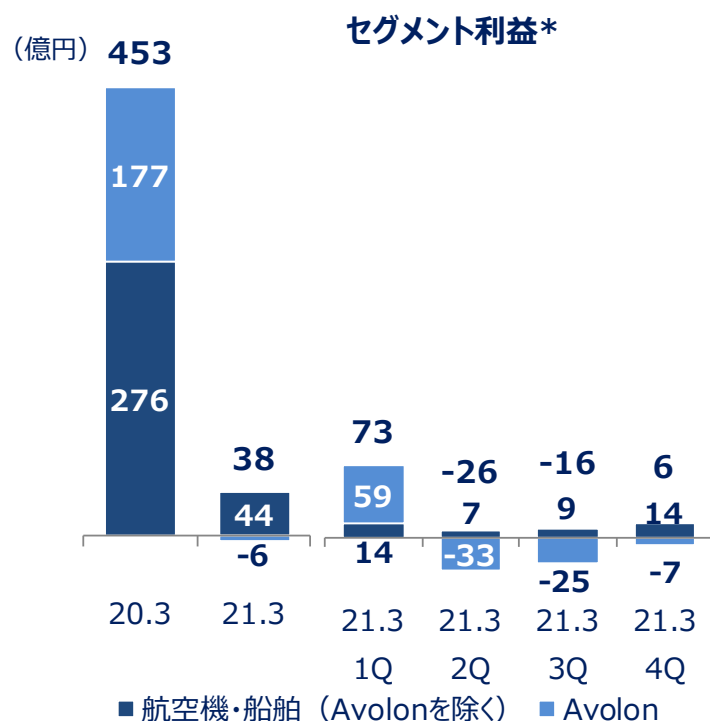
- ✓ 航空機、Avolonは、リース料収入や売却益の減少により減益 (リース料収入の減少は、前期に機体を売却した影響を含む)
- ✓ 航空機、Avolonはともに前Q比では増益

セグメント資産 : 6,018億円

前期末比 +165億円 (+3%)

- ✓ 為替影響を除くと、ほぼ横ばい (航空機は機体売却に伴い資産減少、船舶の資産は増加)

航空機リース事業 (2021年3月末時点)



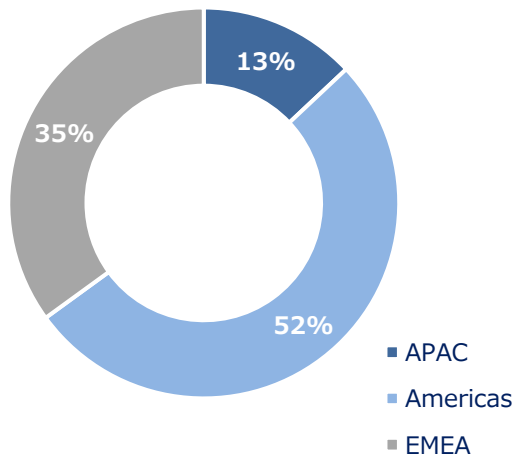
	オリックス 航空機リース事業	Avolon
業歴	43年 ファイナンスリースから開始 (1991年ORIX Aviation設立)	11年 (2010年設立)
ビジネス モデル	<ul style="list-style-type: none"> 中古マーケットでのトレーディングが主力 第三者に対する機体購入のアレンジメントやアセットマネジメントサービスに強み 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機メーカーに大口発注 発注機のリースに強み
オリックス 出資比率	100%	30% (2018年11月取得)
格付	S&P : 最上位Strong (サービス格付)	Fitch : BBB- Moody's : Baa3 S&P : BBB-

*Avolonのセグメント利益は、米国会計基準への組み替えを実施しているため、Avolonが国際会計基準に基づき公表している数値とは異なります

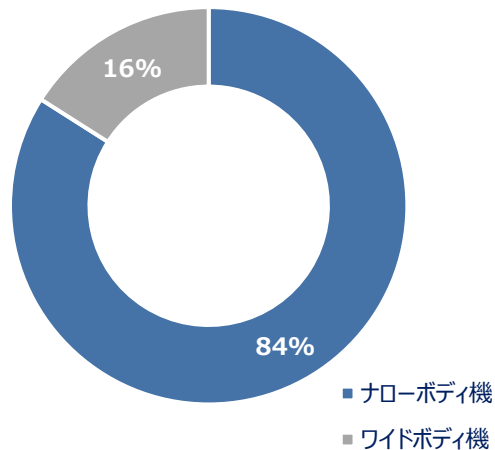
航空機リース事業について

オリックス 航空機リース事業

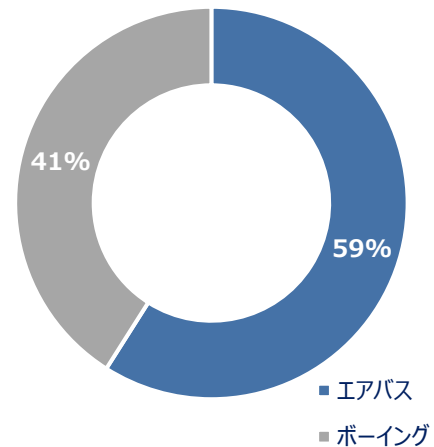
地域分布
(簿価ベース)



機種分布
(機数ベース)

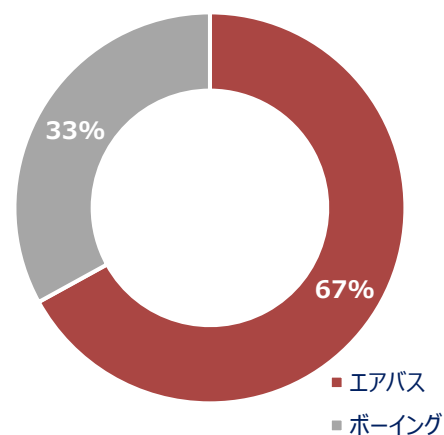
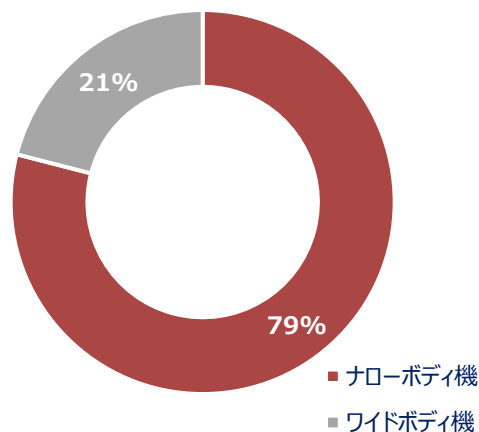
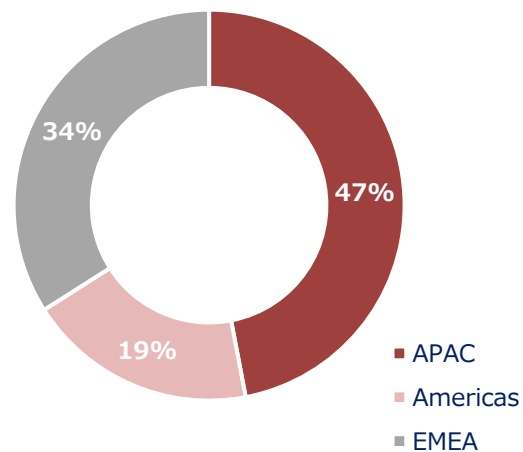


メーカー分布
(機数ベース)



保有機数	69機	発注機数	0機
平均機齢	6.0年		
平均残リース期間	6.5年	管理機数	151機

Avolon



保有機数	516機	発注機数*	262機
平均機齢	5.4年		
平均残リース期間	6.7年		

*メーカー発注のキャンセル等により2019年12月末時点の400機から減少
2021年末までにデリバリーされる発注機は全機リース契約締結済み

2021年3月末時点

セグメント別実績 (8) ORIX USA

セグメント利益 : 436億円

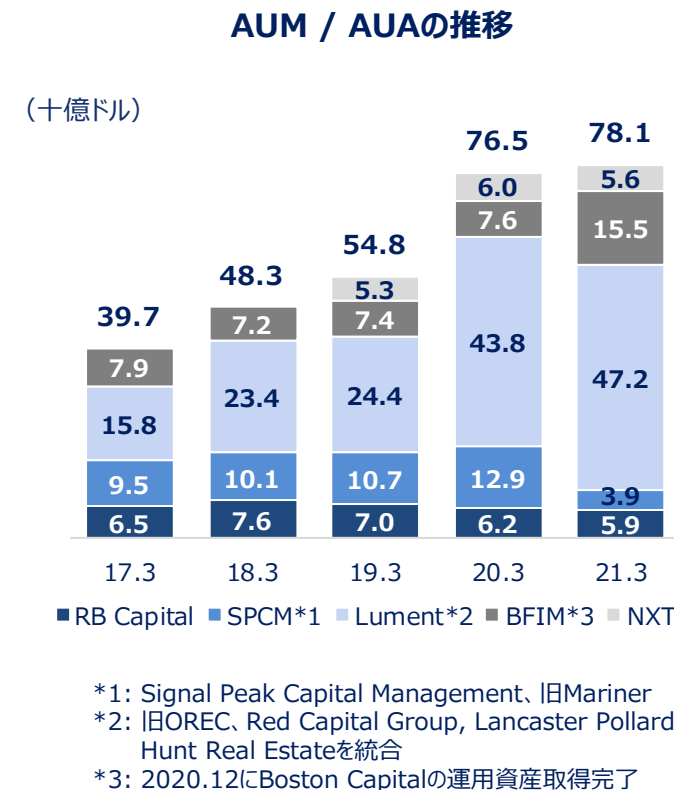
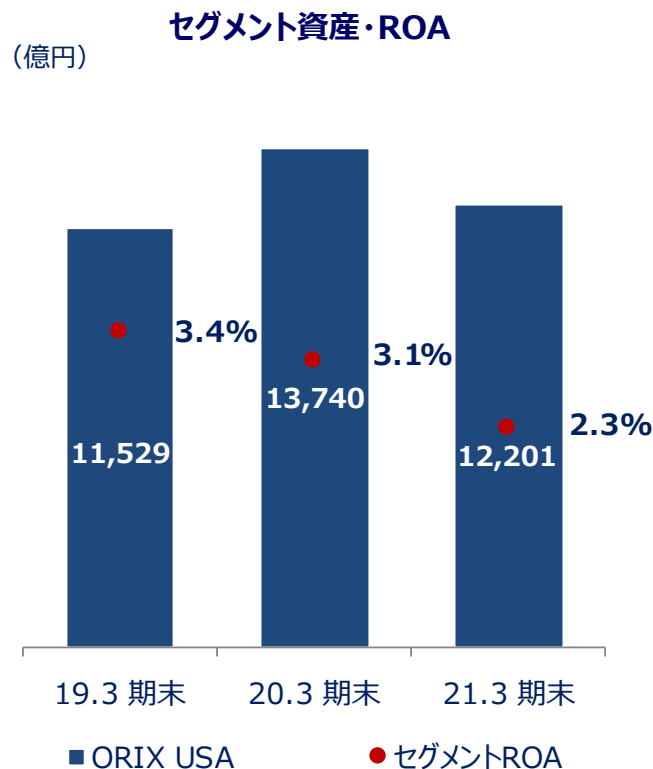
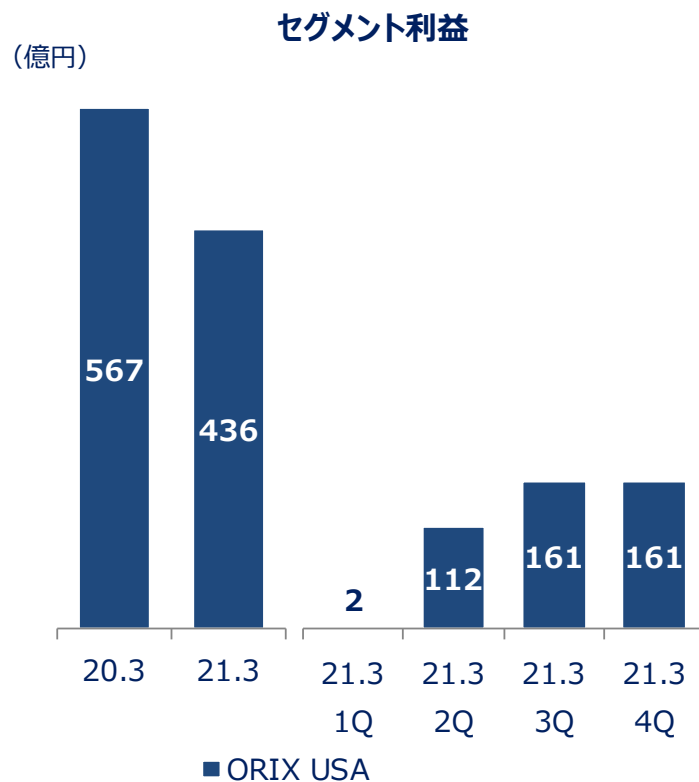
前期比 ▲131億円 (▲23%)

- ✓ 1Qはエネルギー関連向けを中心に、信用損失費用を計上した影響もあり減益
2Q以降各事業の幅広い改善により、利益が大幅回復
- ✓ 前期はHoulihan株式の売却益を計上

セグメント資産 : 12,201億円

前期末比 ▲1,539億円 (▲11%)

- ✓ 与信案件に引き続き慎重に取り組んでおり、資産は減少
- ✓ Boston Capitalの運用資産を買収後、BFIMのAUMは155億ドルに達し、低所得者用住宅の分野でトップのLIHTCシンジケートとなる



- ✓ 米国において40年以上の歴史を誇る
- ✓ 現在はクレジット、事業投資（PE）及び不動産の各ビジネスにおいて、米国のミドル・マーケット企業に注力
引き続き、アセットマネジメントビジネスの拡大を目指す

(2021年3月末時点)

クレジット	事業投資（PE）	不動産					
セグメント資産: 60億 USD	セグメント資産: 10億 USD	セグメント資産: 40億 USD					
<p>NXT Capital 上位担保付ローンを中心に、米国のミドル・マーケット企業に80億ドルを融資</p> <p>ORIX Municipals & Infrastructure 高利回り債券（地方債、インフラ関連債権）に10億ドルの投資実績</p> <p>Signal Peak Capital Management シンジケート・ローン、ストラクチャード・ファイナンス（CLO）で50億ドルを運用</p>	<p>ORIX Capital Partners</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年で18件のディール ・OCPとして初めてのエグジットを2021年4月に実現（投資先のRoadsafe Traffic Systemsを売却） ・ミドル・マーケットに注力。当初のインフラ関連投資から、現在はITサービス、デジタル・マーケティング、ファクトリー・オートメーションにシフト <p>ORIX Private Equity Solutions</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去9年で47件のディール ・平均投資金額は1,000~2,000万ドル 	<p>既存の不動産子会社3社を 新ブランド Lument に統合</p> <table border="1" data-bbox="1740 704 2435 819"> <tr> <td>FHAローン 貸出金額 1位</td> <td>中低所得者向け 住宅 FHAローン 6位</td> <td>シニア向け 住宅ローン 1位 (米国内)</td> <td>FHAローン シニア向け 住宅 1位</td> <td>FannieMae 少額ローン トップ5 (米国内)</td> </tr> </table> <p>*Mortgage Bankers Association's 2020 CRE Originations Rankings</p>  <p>営業拠点 : 25か所 従業員 : 約600名 融資スタッフ: 約160名</p>	FHAローン 貸出金額 1位	中低所得者向け 住宅 FHAローン 6位	シニア向け 住宅ローン 1位 (米国内)	FHAローン シニア向け 住宅 1位	FannieMae 少額ローン トップ5 (米国内)
FHAローン 貸出金額 1位	中低所得者向け 住宅 FHAローン 6位	シニア向け 住宅ローン 1位 (米国内)	FHAローン シニア向け 住宅 1位	FannieMae 少額ローン トップ5 (米国内)			

セグメント別実績 (9) ORIX Europe

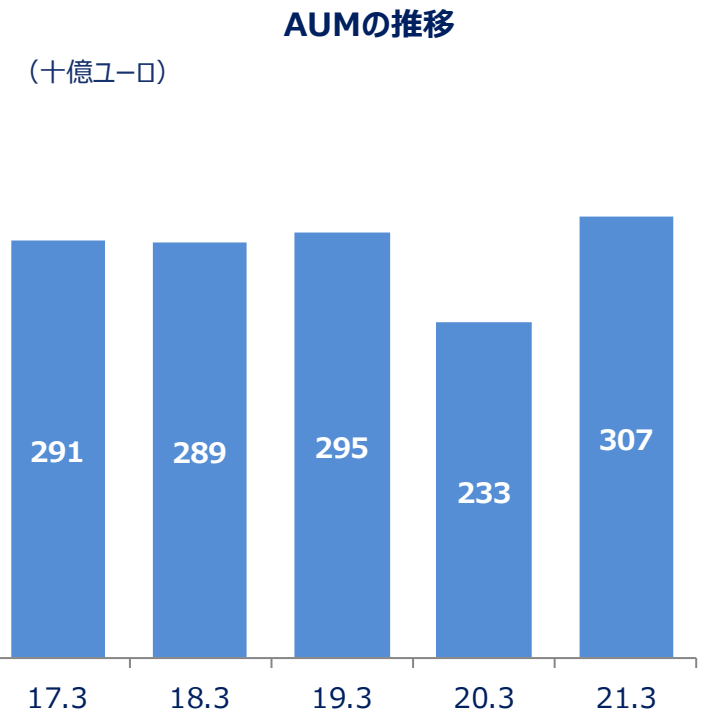
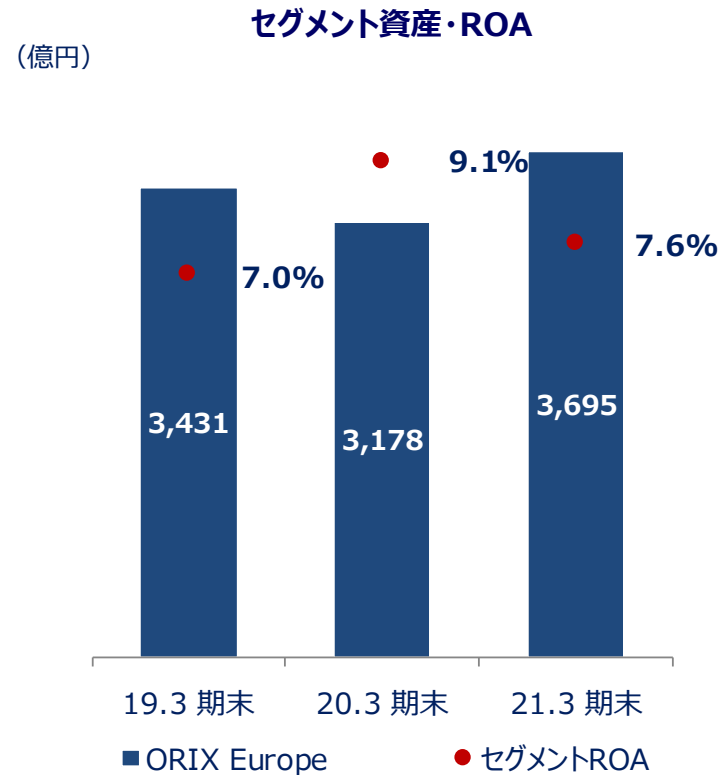
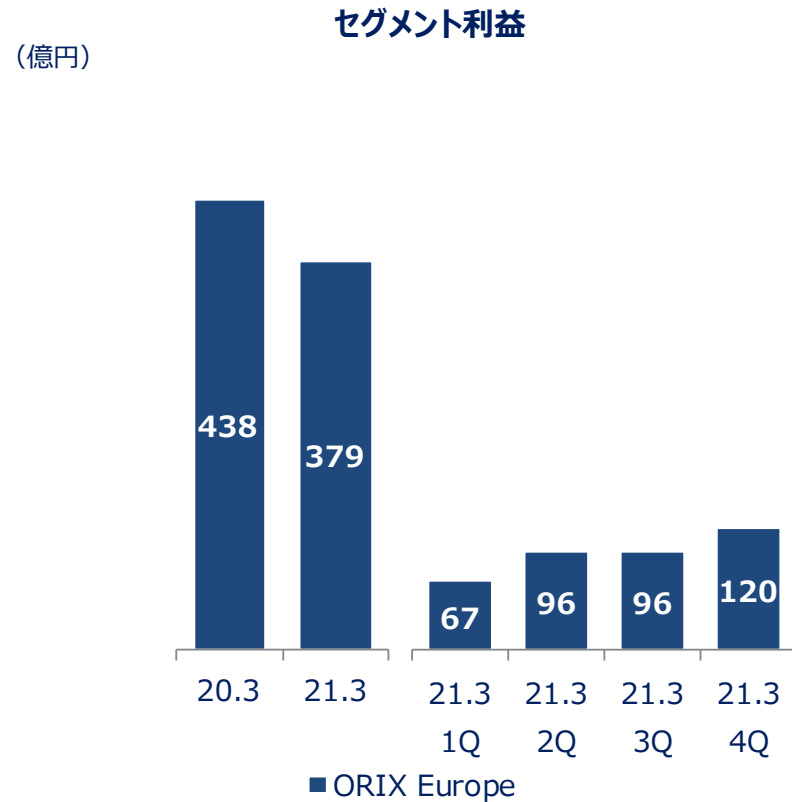


セグメント利益 : 379億円 前期比 ▲59億円 (▲13%)

- ✓ AUMが大幅に回復し、前期RobecoSAMの一部門の売却益を除くと増益
- ✓ 比較的フィーの高い商品ヘシフト

セグメント資産 : 3,695億円 前期末比 +517億円 (+16%)

- ✓ 市場の回復に伴い、AUMは大きく増加
- ✓ Gravis Capital Managementの発行済株式70%を取得済



セグメント事業内容：株式・債券のアセットマネジメント

2021年2月にオルタナティブ資産運用会社のGravis Capital Management*の買収を完了

① ORIX Corporation Europe

	本拠地	特徴	設立 (取得)
Robeco	ロッテルダム	株式・債券運用、 サステナビリティ投資の 資産運用会社	1929年 (2013年)
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)
Harbor Capital Advisors	シカゴ	サブアドバイザーモデル による運用	1983年 (2013年)
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社 (CTA)	1991年 (2013年)

② Gravis Capital Management*

Gravis Capital Management	ロンドン	オルタナティブ資産運用会社	2008年 (2021年)
------------------------------	------	---------------	------------------

* 主に英国のインフラや再生可能エネルギー、不動産などESGの観点から選別したアセットを投資対象としたファンド

Robecoは、1990年代よりESG投資をリード
サステナビリティ投資のリーダー

Robeco単体の運用資産総額
(2020年12月末時点)



1,760億ユーロ

うちESG要素を統合した運用資産総額



1,600億ユーロ

2050年までにAUMレベルでのカーボンニュートラル達成を目指す
(2020年12月にNet Zero Asset Managers Initiativeへの
参画を表明)

オリックスグループ アセットマネジメント事業

✓ 伝統的な株式・債券の運用（OCE）から、米国、欧州を中心にオルタナティブ系の資産運用ビジネスを拡大

2021年3月末時点の
運用資産残高：

約 **50 兆円**

OCE (ORIX Corporation Europe)

AUM
39.9 兆円

- Robeco Institutional Asset Management
- Harbor Capital Advisors
- Boston Partners Global Investors
- Transtrend
- Gravis Capital Management (21.3期買収)

OCU (ORIX Corporation USA)

AUM
8.6 兆円

- Signal Peak Capital
- Lument (IBOREC: Red Capital Group, Lancaster Pollard, Hunt Real estate Capital)
- Boston Financial Investment Management
- NXT Capital

不動産 (日本)

AUM
1.3 兆円

- オリックス・アセットマネジメント (OAM)
- オリックス不動産投資顧問 (ORIA)

その他

- 自動車の管理台数 **142 万台**
- 航空機の管理機数 **151 機**
- 発電所の管理 **83 サイト 430 MW***

*2018年にオリックス・リニューアブルエナジー・マネジメント (OREM) を設立

OCE,OCUのAUMは
2021年3月末時点の為
替レートで換算

セグメント別実績 (10) アジア・豪州

セグメント利益：147億円 前期比 ▲0.1億円（横ばい）

✓ PE投資先に対して減損を計上するも、現地法人の利益は堅調

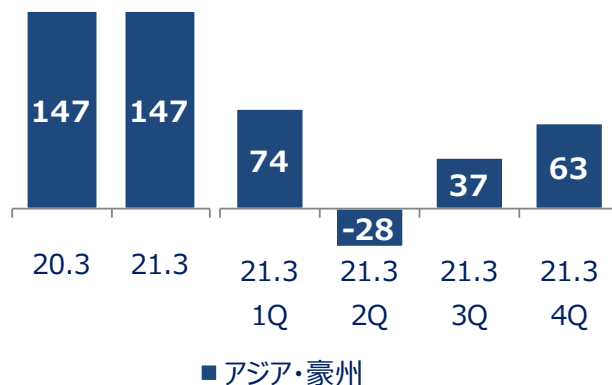
セグメント資産：10,842億円 前期末比 +740億円（+7%）

✓ 為替影響を除くと、ほぼ横ばい

（コロナ影響の大きい東南アジアは減少、コロナ影響の小さい中国・韓国は増加）

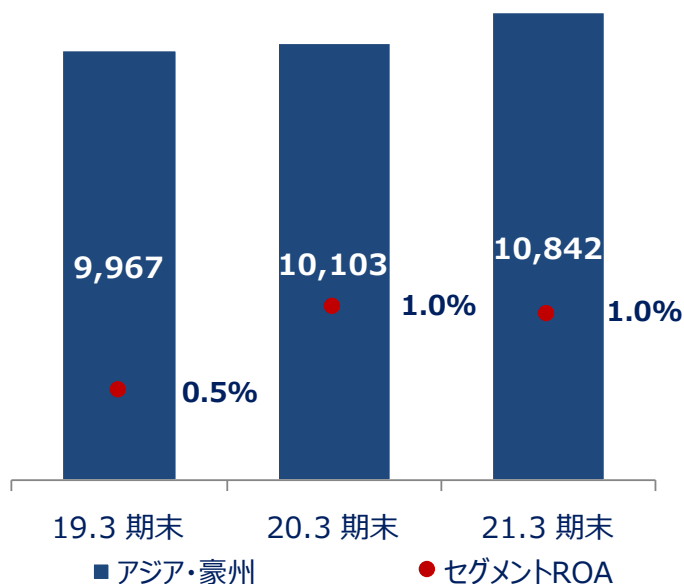
セグメント利益

(億円)

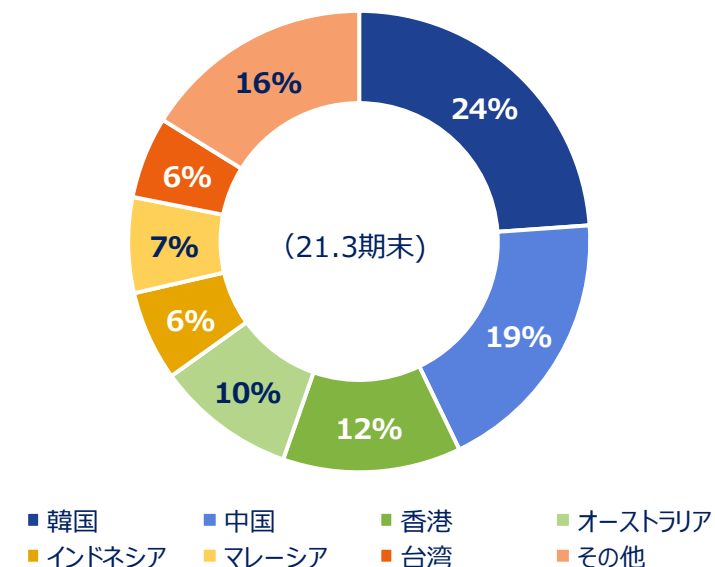


セグメント資産・ROA

(億円)

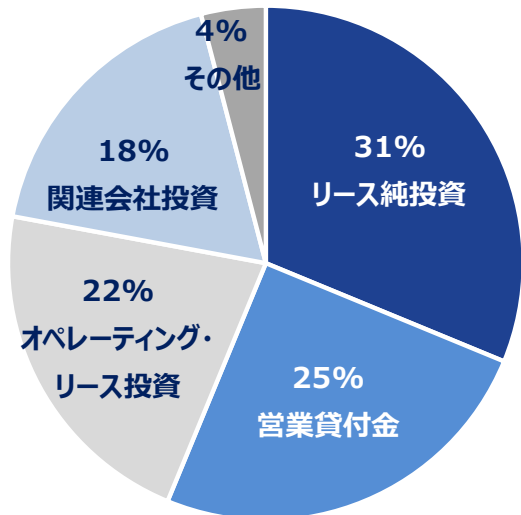


セグメント資産/地域別

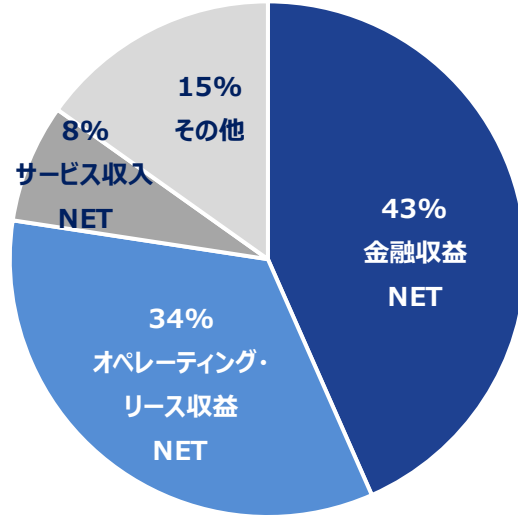


セグメント事業内容：アジア・豪州における金融、投資

セグメント資産（21.3期末）



セグメント収益 NET*（21.3期）



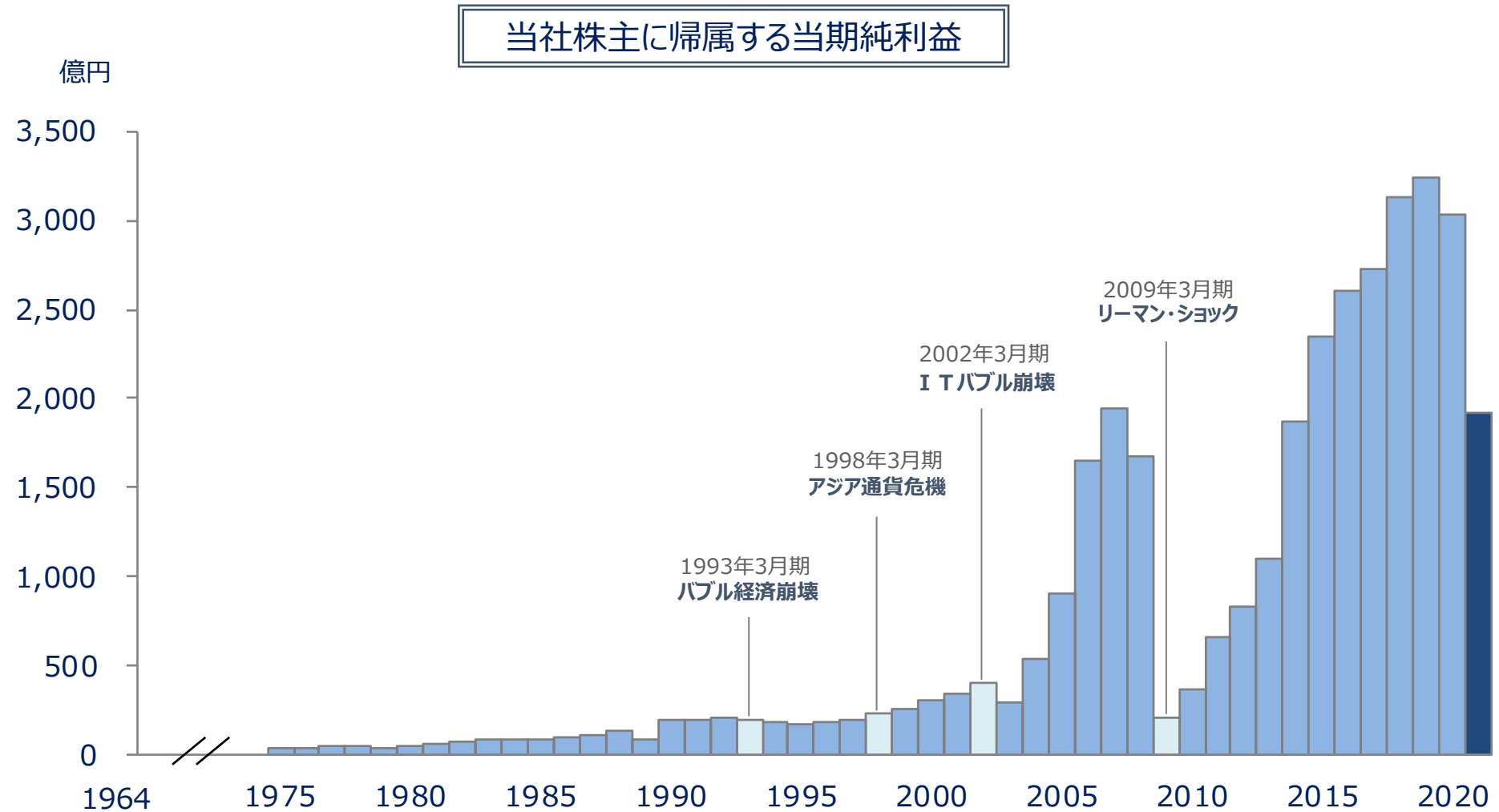
* セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

主な現地法人（アジア・豪州）

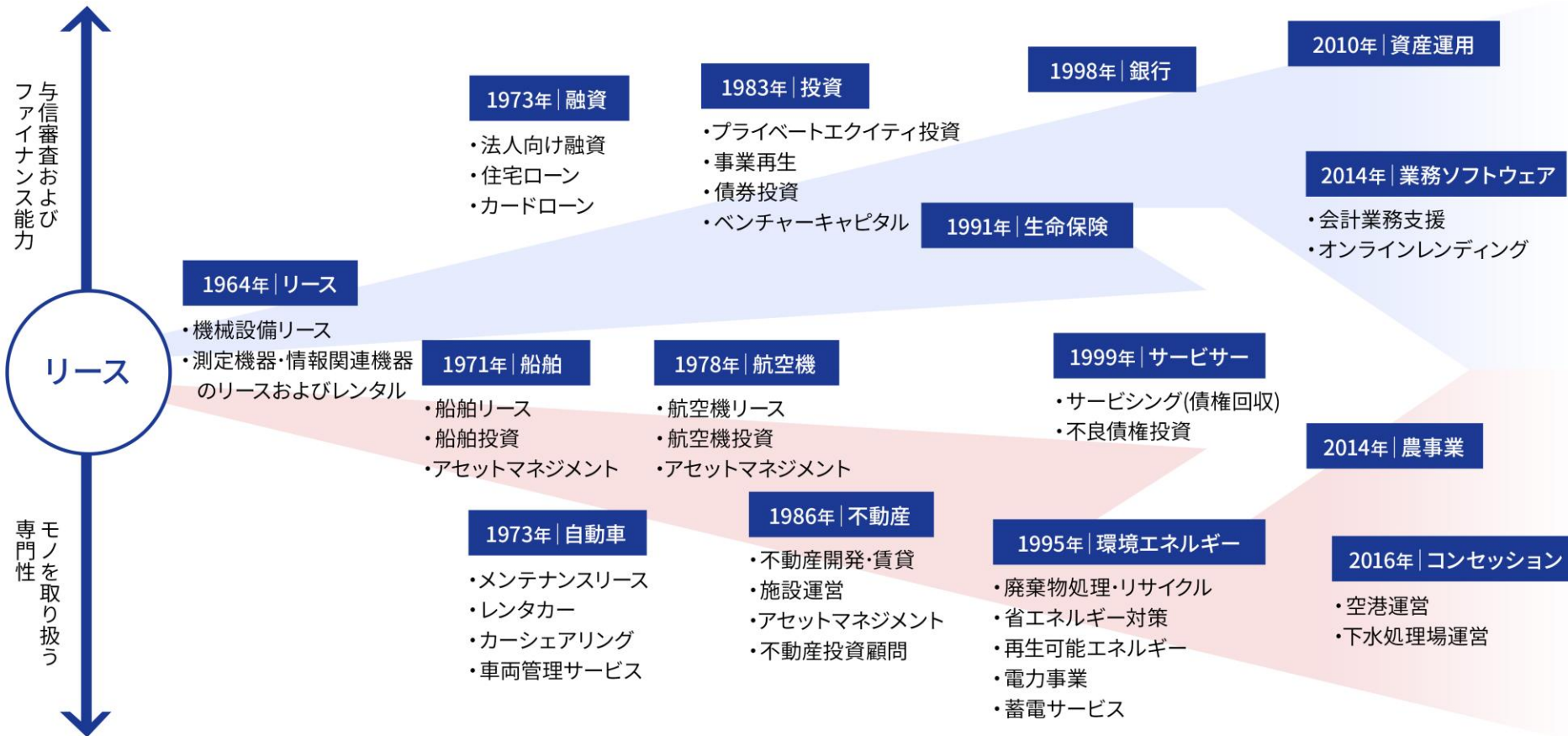
企業名	地域	事業内容	設立
ORIX Asia Limited	香港	リース、自動車リース、融資、銀行	1971/9
ORIX Leasing Malaysia Berhad	マレーシア	リース、融資	1973/9
PT. ORIX Indonesia Finance	インドネシア	リース、自動車リース	1975/4
ORIX Australia Corporation Limited	オーストラリア	自動車リース、トラックレンタル	1986/7
ORIX Auto Infrastructure Services Limited	インド	自動車リース、レンタカー、リース、商用車担保ローン、不動産担保ローン	1995/3
ORIX Auto Leasing Taiwan Corporation	台湾	自動車リース	1998/4
ORIX Capital Korea Corporation	韓国	自動車リース、リース、融資	2004/2
ORIX China Corporation	中国	リース、レンタル	2005/8

補足資料

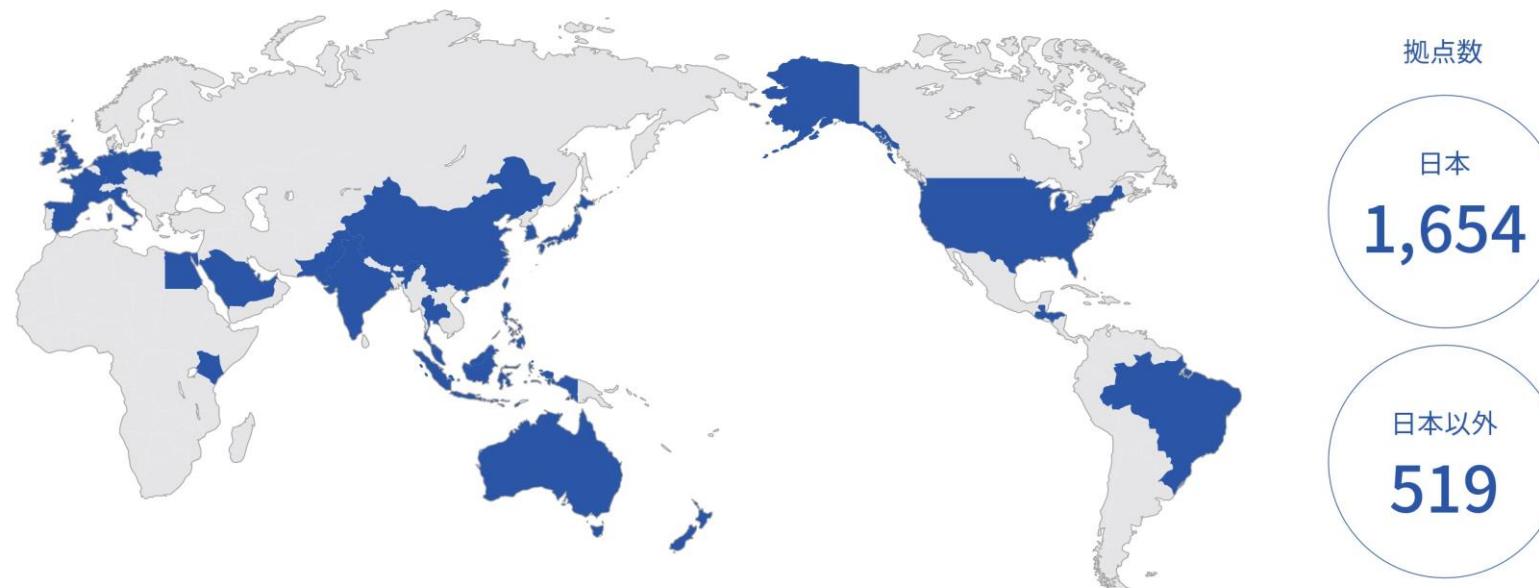
- ✓ 設立初年度を除き、56年間毎期黒字を計上



✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



✓ 国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界31ヶ国・地域で事業を展開



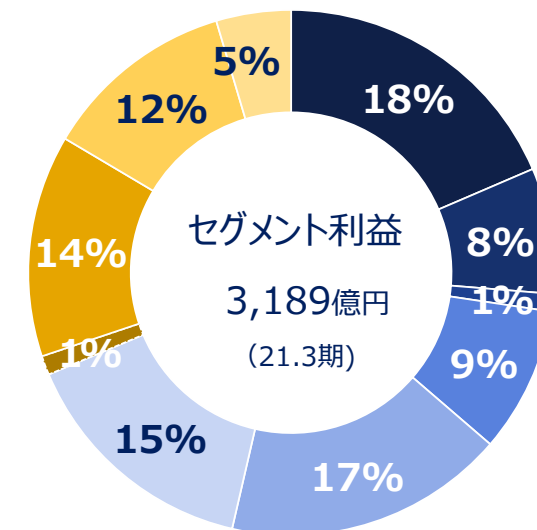
(2021年3月末日時点)

1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
グローバルネットワークの国・地域数				
7カ国・地域	12カ国・地域	18カ国・地域	26カ国・地域	世界 31カ国・地域
アジアでのリースを中心とした グローバルネットワークの拡大		グローバルネットワークの拡大継続 航空機関連やエクイティ投資への事業が多角化		ロベコ買収や、環境エネルギー事業の展開を 通じてさらに事業分野が拡大

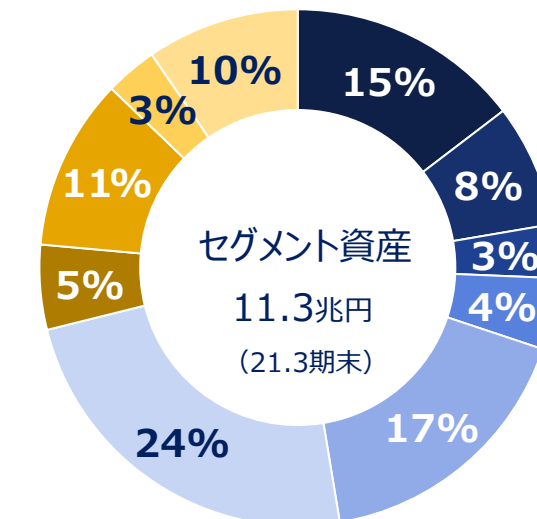
オリックスについて セグメント別の利益・資産の構成

✓ それぞれの事業が独自の強みを最大限に発揮し、相乗効果を生み出している

法人営業・メンテナンスリース	金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生
不動産	不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント
事業投資・コンセッション	企業投資、コンセッション
環境エネルギー	国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理
保険	生命保険
銀行・クレジット	銀行、カードローン
輸送機器	航空機のリース・管理、船舶関連投融資
ORIX USA	米州における金融、投資、アセットマネジメント
ORIX Europe	株式・債券のアセットマネジメント
アジア・豪州	アジア・豪州における金融、投資



21.3期 EBITDA 7,128億円



ポートフォリオの3分類 (P8の金融、アセットマネジメント・保険、事業・投資の構成要素)

3分類とセグメントのマトリクス

		3分類		
		金融	アセットマネジメント・保険	事業・投資
セグメント	法人営業・メンテナンスリース	法人営業		自動車、レンタル、 サービサー、弥生
	不動産		アセットマネジメント	不動産投資、大京
	事業投資・コンセッション			PE投資
	環境エネルギー			環境エネルギー
	保険		生命保険	
	銀行・クレジット	銀行、クレジット		
	輸送機器			船舶
	ORIX USA		アセットマネジメント、 貸付金、債券投資	PE投資
	ORIX Europe		アセットマネジメント	
	アジア・豪州	リース、貸付金		PE投資
		コロナ影響小		コロナ影響大

売却益の内訳について

- ✓ 多様な事業から安定的に売却益を計上（メインドライバーは、不動産事業、事業投資とORIX USA）
- ✓ また、オリックス・ゴルフ、オリックス・リビングの売却など、ポートフォリオの入れ替えも実施

売却益*の推移

(億円)

事業部門	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期
不動産	472	② 582	③ 547	184
事業投資・コンセッション	272	8	187	14
ORIX USA	243	382 ⑤	423	308
その他	① 445	106	④ 272	387
合計	1,432	1,078	1,429	893

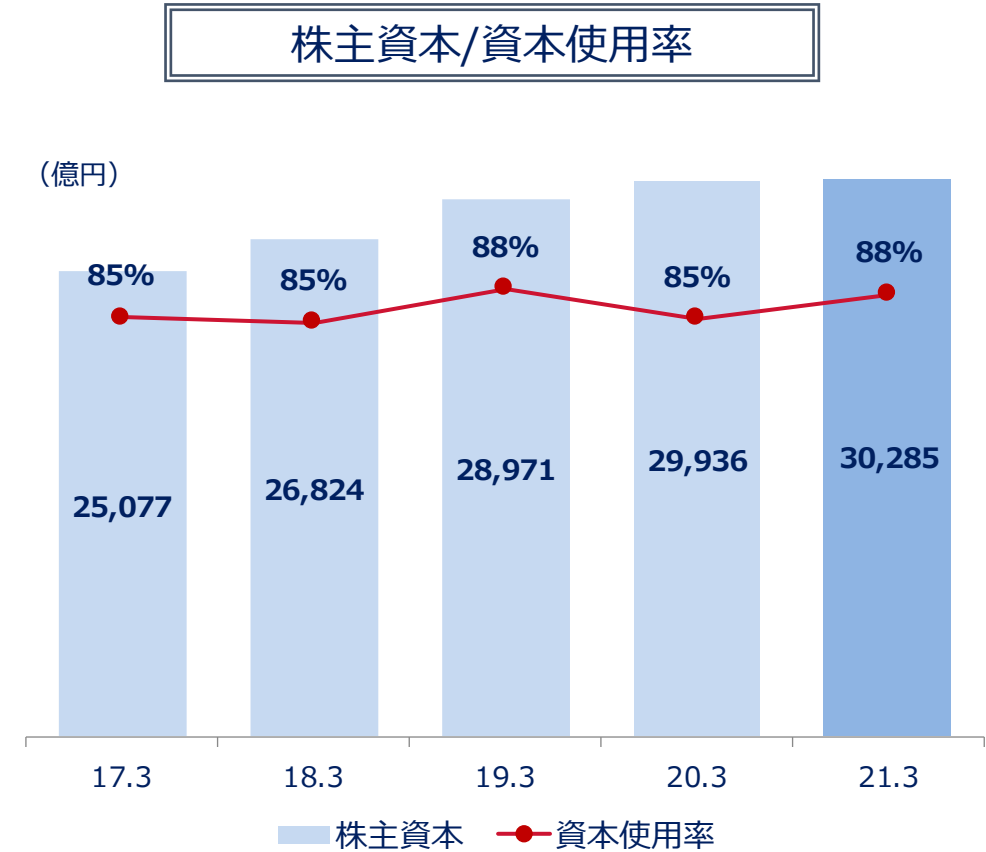
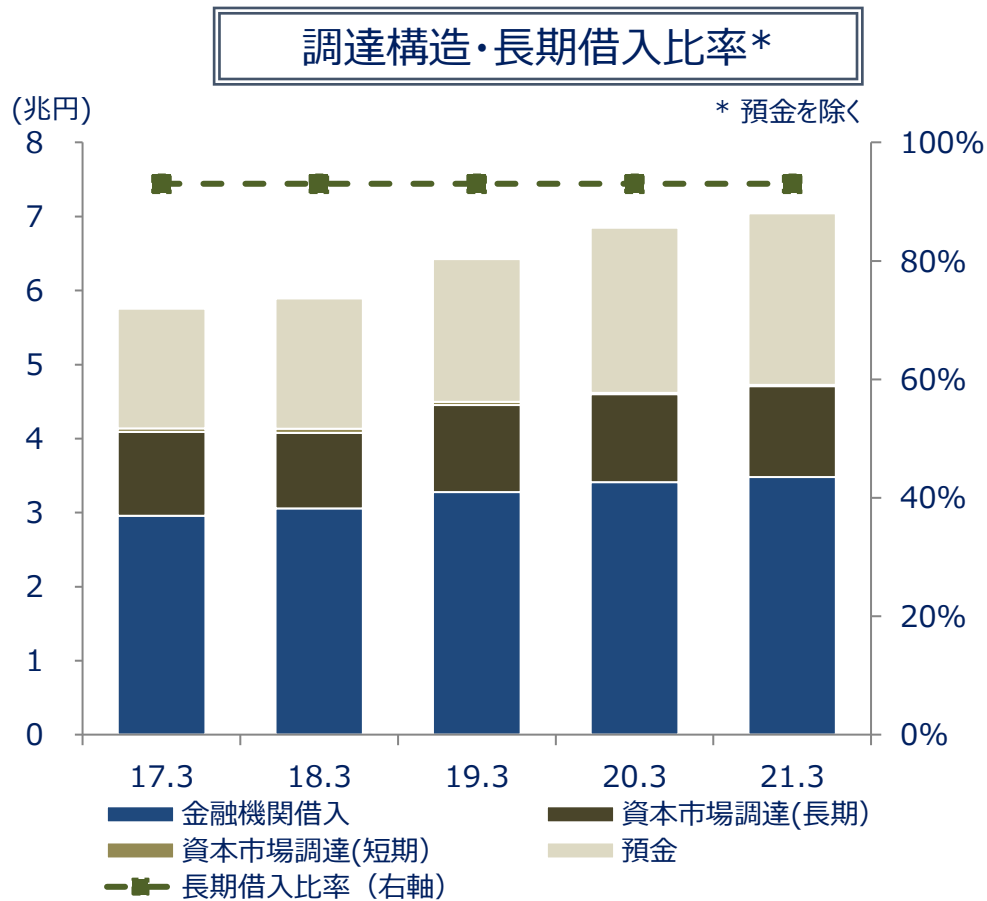
主な事業売却

No.	会社名	売却年度
①	オリックス電力	18.3期
②	オリックス・ゴルフ・マネジメント	19.3期
③	オリックス・リビング	20.3期
④	RobecoSAMの ESG レーティング部門	20.3期
⑤	Houlihan Lokey	18.3期、19.3期、20.3期

*売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など

財務（1） 資金調達構造/株主資本使用率

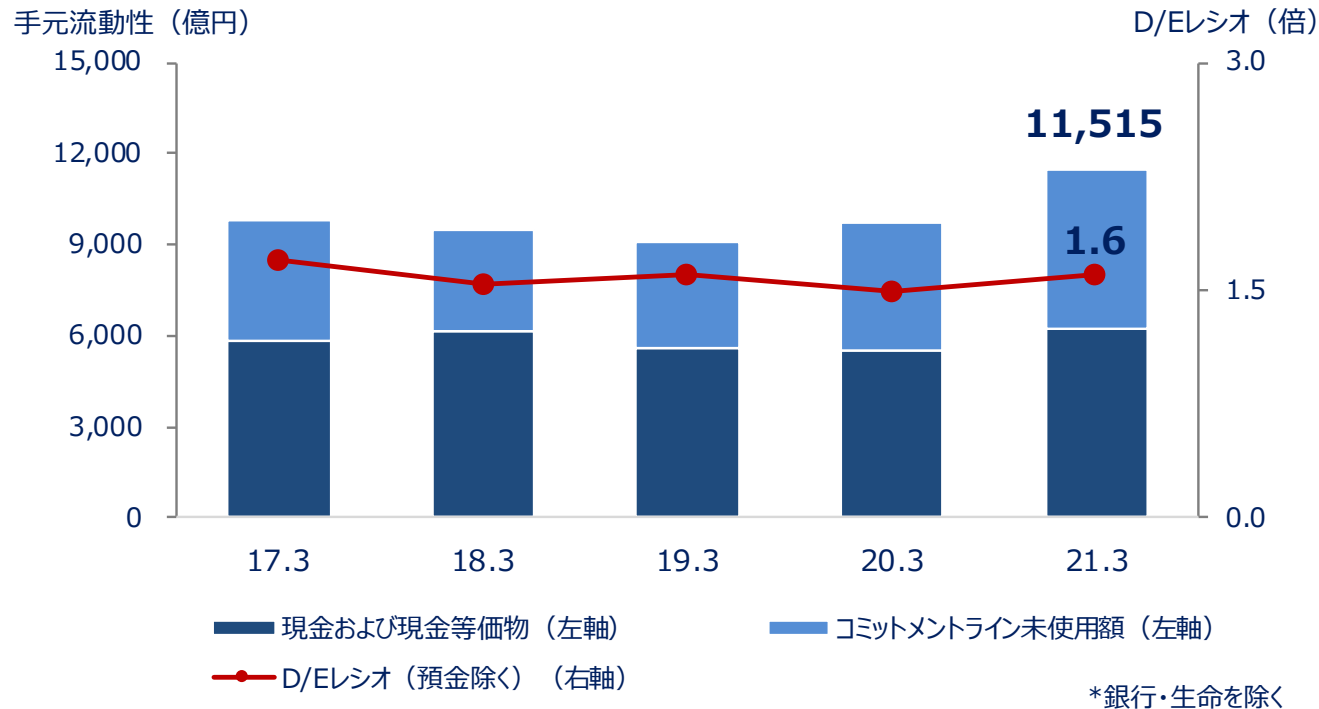
- ✓ 資金調達構造：資金調達手法を多様化、高い長期借入比率を維持
- ✓ 株主資本使用率：オリックスの株主資本に対して、どれほど資本を使用しているかを示す比率
引き続き、リスク/リターンをコントロールしつつ成長を目指す



財務（２） 手元流動性/格付

- ✓ 引き続き、高い流動性を維持
- ✓ S&P、Moody's、FitchすべてA-を維持。R&IはAA-
- ✓ 投資や売却のタイミング次第では、格付が変動する可能性は有るが、中長期的にはA格に相応しい財務基盤を維持

手元流動性*・D/Eレシオ



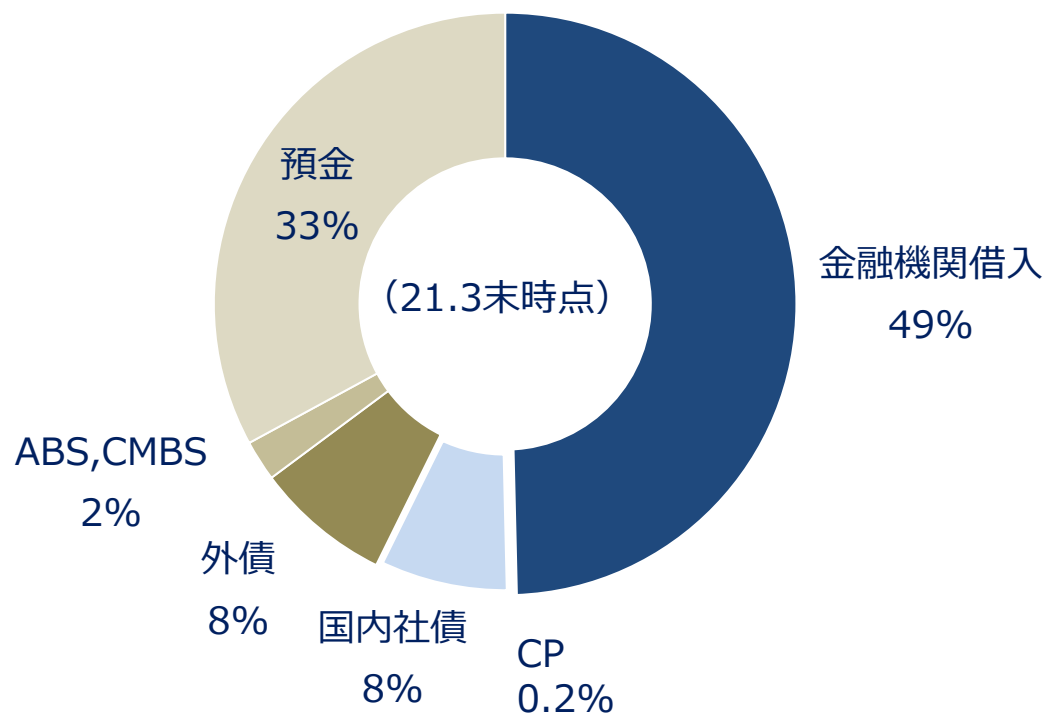
格付

(2021年3月末時点)

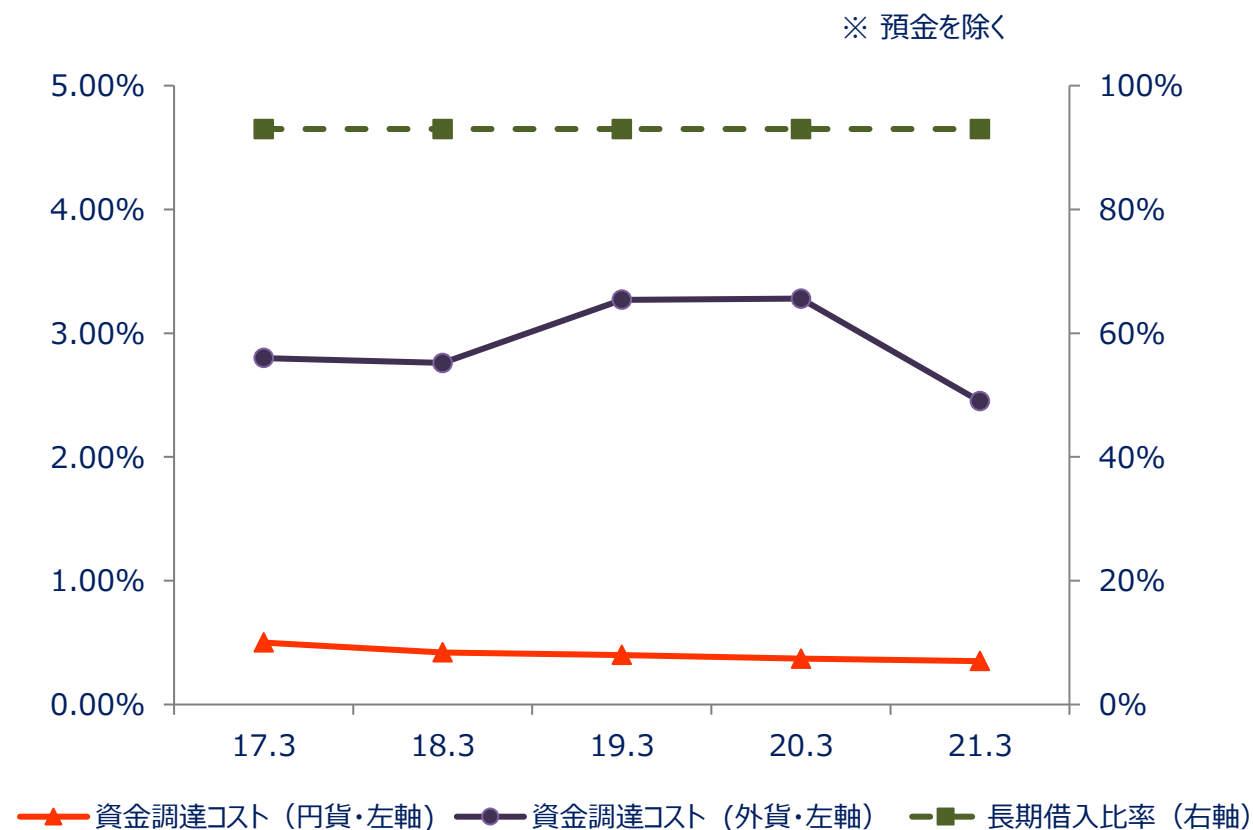
格付一覧	
S&P	A- (ネガティブ)
Moody's	A3 (ネガティブ)
Fitch	A- (ネガティブ)
R&I	AA- (安定的)

✓ 多様化された資金調達。高い長期借入比率を維持しながらコストをコントロール

資金調達の内訳



コスト・長期借入比率（※）の推移

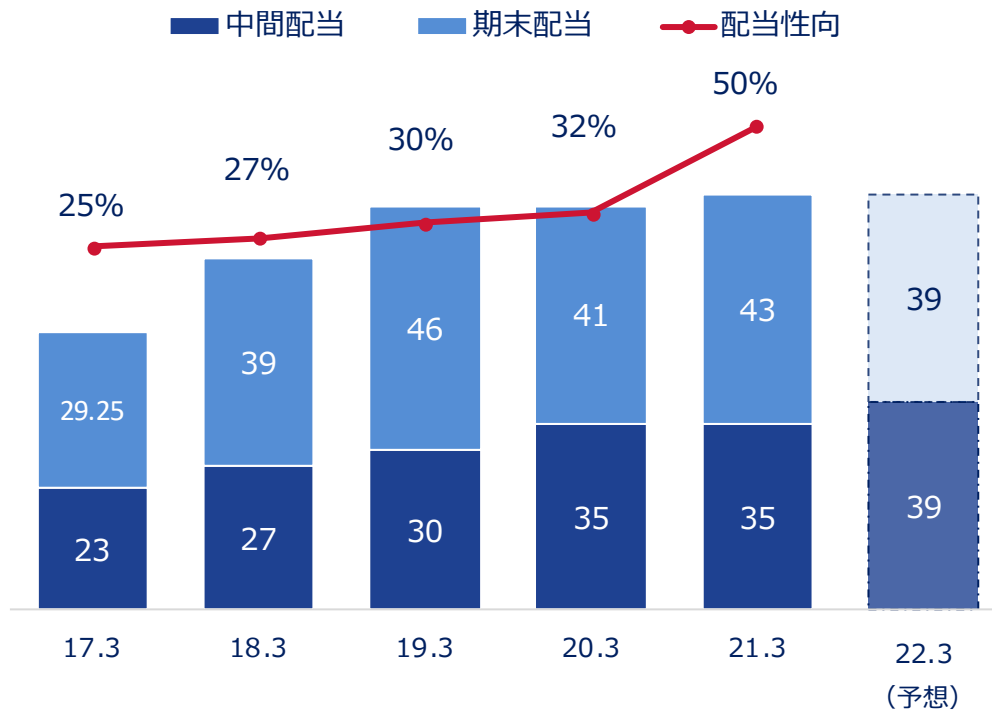


株主還元について

- ✓ 21.3期 通期配当額78円（配当性向50%）、22.3期 通期配当予想78円
- ✓ 自社株買いは、22.3期中に500億円を実行予定

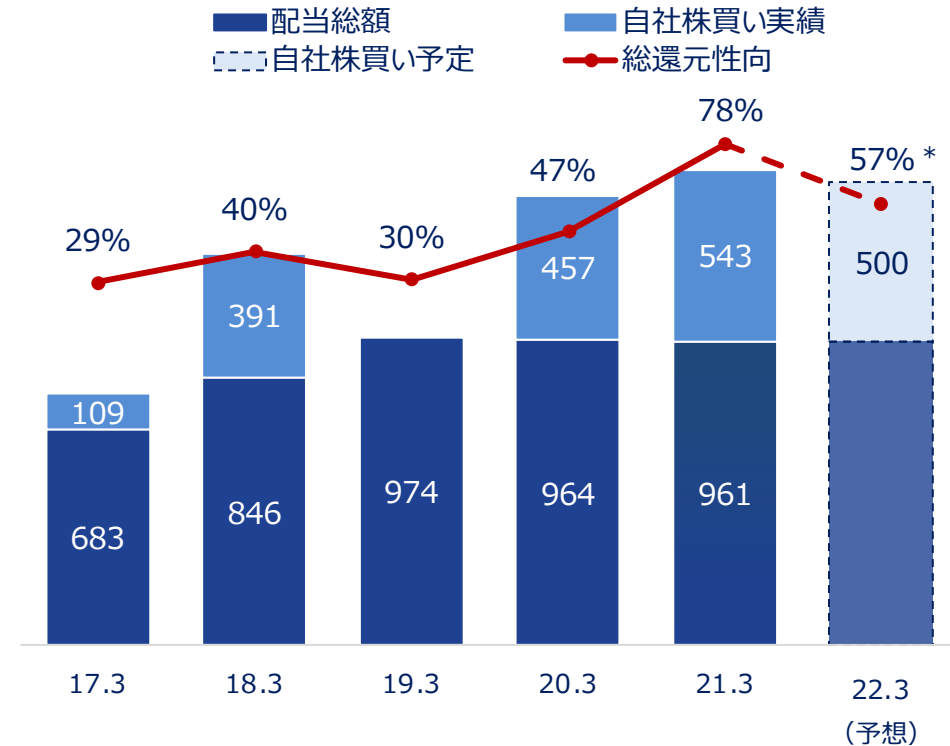
1株あたり配当金と配当性向

(単位：円)



自社株買いと総還元性向

(単位：億円)



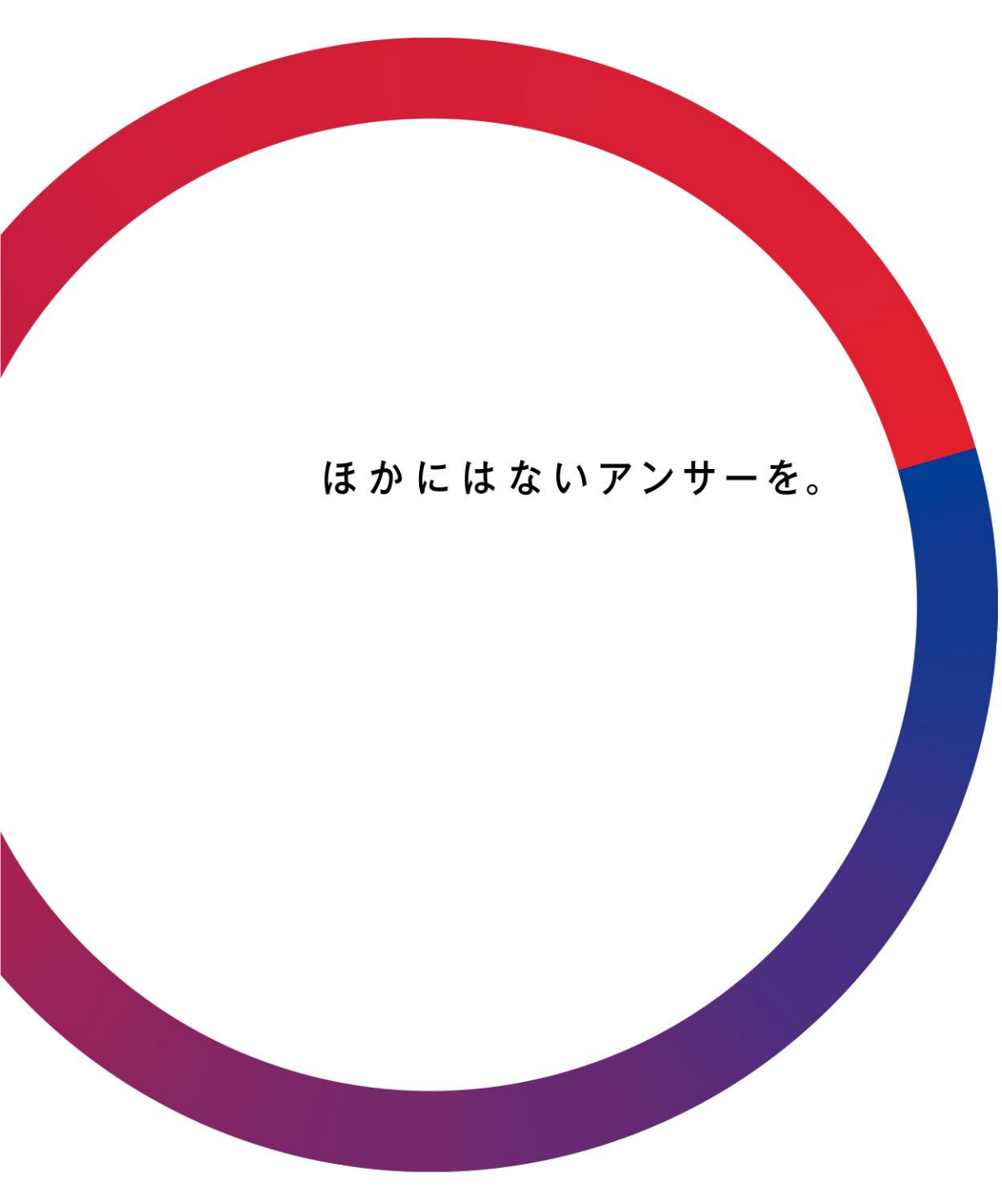
*当期純利益が2,500億円の場合、22.3期の総還元性向は57%と予想

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみで全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 IR・サステナビリティ推進部

TEL : 03-3435-3121